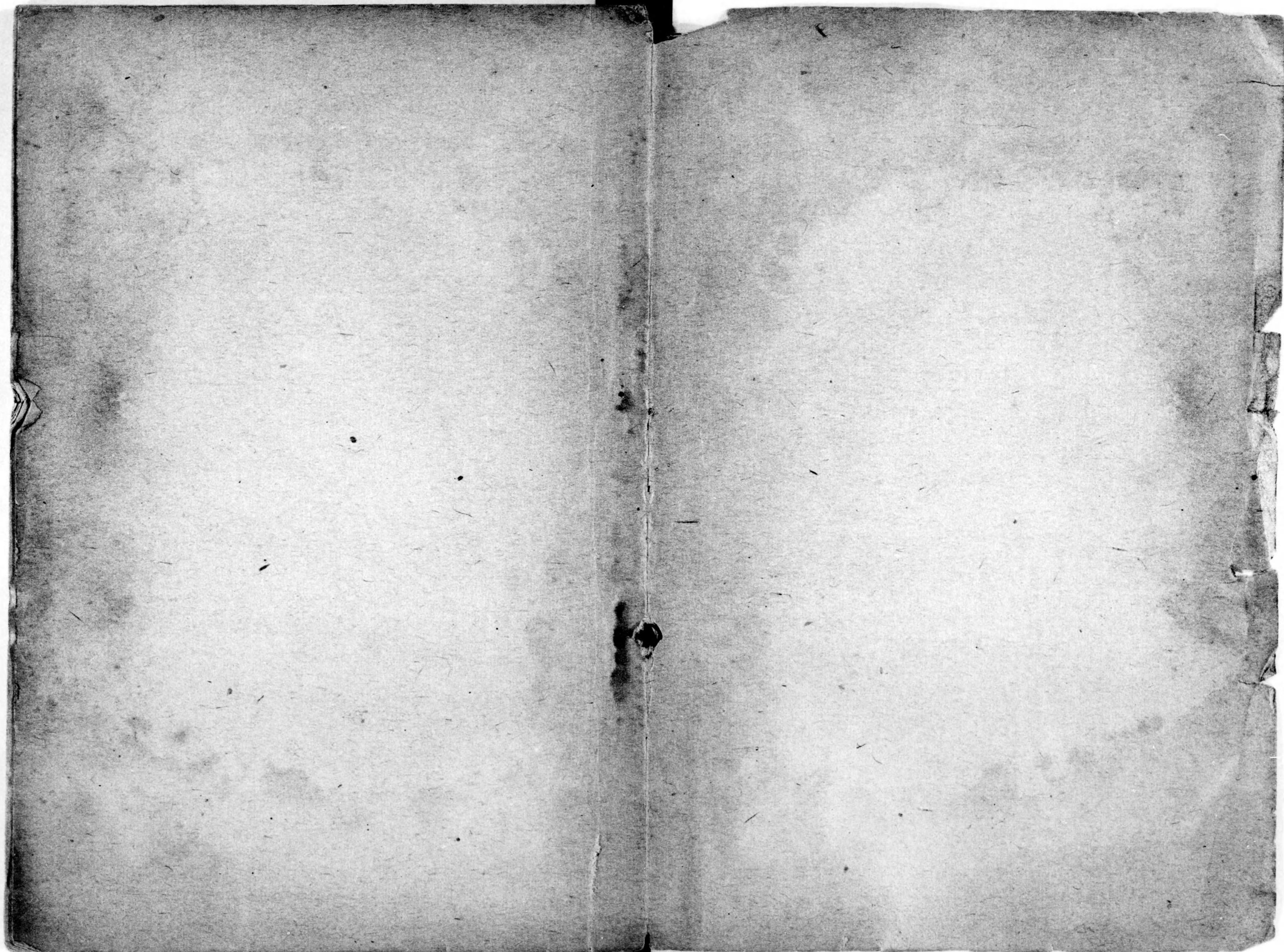




0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

始





特106
658

化の皮

目次

一、偽博士、眞博士……………	二
○文學博士三宅雪嶺……………	三
○法學博士高橋作衛……………	五
○醫學博士荒木重三郎……………	七
○文學博士澤柳政太郎……………	九
○文學博士竹添進一郎……………	一〇
二、黄金と結婚せる大學教授の卑屈……………	一二
○赤禪と佐渡の土、兩手に花の博士連中……………	一二
○遺留財産十萬を受けた土方博士……………	一四
○小隼三合も持たぬ加藤正治博士……………	一七
○越禪の牧野教授……………	一八
三、帝大新七博士の裏面……………	二〇
○井ノ哲博士の犬糞的復讐……………	二〇
○性慾の眠眩せる宮崎博士……………	二二
○悖德的福人上田博士……………	二四
○骨董教授三幅對……………	二六
○遊蕩兒岡松博士……………	二九
四、流行十二博士の一長一短……………	三一
○井上文學博士……………	三二
○青山醫學博士……………	三三
○古庄農學博士……………	三五
○櫻井理學博士……………	三五
○渡邊工學博士……………	三六
○寛法學博士……………	三七

大正
8. 11. 10
内交

- 勝本法學博士……………三八
- 青本法學博士……………四〇
- 高田法學博士……………四一
- 波多野文學博士……………四二
- 田中法學博士……………四四
- 浮田法學博士……………四五

五、三府四十二縣知事……………四六

- 古狸、大森京都府知事……………四六
- 鐵面皮服部兵庫縣知事……………四七
- 久保田東京府知事の秘訣……………四七
- 十て神童の大久保利武……………四八
- 官學の代表石原神奈川縣知事……………四九
- 松井愛知縣知事の表裏……………四九
- 凡庸、笠井岡山縣知事……………五〇
- 老獺、寺田廣島縣知事……………五一
- 事務家、谷口福岡縣知事……………五一
- 坊ンチ、李家長崎縣知事……………五二

六、官界長者の大頭小頭……………五九

- 國家の蠶毒……………五九
- 井上と松方……………六一
- 山縣、大隈、山本、樺山、河村、山内、伊東、後藤……………六四
- 田中、渡邊、寺内、西村、大木、三島、西郷、大山、井上、高橋……………七〇
- 加藤、佐藤、齋藤、財部、松本、武田……………七三

七、慾の競合……………七六

- 前大岡文相と角眞の出齒競べ……………七六
- 蒙古王の三千五百金……………七八
- 大養木堂の金の蔓……………七九

八、名物六十六頭顱……………八二

- 田中舍身の一億萬圓……………七九
- 後藤新平の惡談……………八〇
- 男爵淺澤榮一の色の出り……………八二
- 前日銀總裁松尾臣善のメテン……………八四
- 松方幸次郎の厄鬼勃鬼……………八五
- 前後宮相の破滅……………八六
- 池田謙三の表裏……………八七
- 長閑三大將の出齒競べ……………八八
- 鈴木ハーゲマンの淫野……………八九
- 小澤武雄の偽善振……………九一
- 後藤新平の浮ッ調子……………九二
- 望月右内の骨法……………九五
- 森村市左衛門の秘密……………九八
- 神田繻藏の骨抜……………九九
- 三浦觀樹の機才……………一〇〇
- 大池忠藏の秘密殿……………一〇一
- 安樂兼道の深幌……………一〇二

- 福澤桃介の算盤……………一〇二
- 久保田政周の男振……………一〇四
- 大谷嘉兵衛の棒讀……………一〇五
- 阪谷東京市長の附燒刃……………一〇六
- 江間俊一の壇の浦……………一〇八
- 中野武營の助倍……………一〇九
- 安田善三郎の恠々……………一一〇
- 大竹貫一の後家規……………一一一
- 下條正雄の巨富……………一一二
- 故山座圓次郎の鍍金……………一一三
- 伊藤大八の猫糞……………一一六
- 橋口勇馬の南洲型……………一一九
- 金子堅太郎……………一二〇
- 山崎嘉太郎……………一二一
- 林權助……………一二三
- 新渡戸稻造……………一二四
- 根津嘉一郎……………一二五
- 大石正己……………一二七
- 箕浦勝人……………一二九

- 増田義一……………一三〇
- 野依秀一……………一三三
- 仙石貢……………一三四
- 團琢磨……………一三五
- 荒井泰治……………一三六
- 坪谷善四郎……………一三七
- 益田孝……………一三八
- 島村抱月……………一四〇
- 川上俊彦……………一四一
- 添田壽一……………一四三
- 日置益……………一四四
- 島田三郎……………一四六
- 阿部泰藏……………一四八
- 前海軍大佐太田三次郎……………一五一
- 杉山茂丸……………一五二
- 尾崎行雄……………一五五
- 近藤廉平……………一五七
- 豊川良平……………一五九
- 園田孝吉……………一六〇

- 渡邊亨……………一六一
- 頭山滿……………一六二
- 星一……………一六四
- 松下軍治……………一六五
- 國澤新兵衛……………一六八
- 福島安正……………一七〇
- 中村覺……………一七三
- 中村雄次郎……………一七四
- 岩谷松平……………一七五
- 淺野總一郎……………一七六
- 松井慶四郎……………一七八
- 加藤高明……………一七九
- 寺内正毅……………一八〇
- 原敬……………一八一

九、新舊關西人物の消長と新聞界……………一八二

- 其一、名古屋方面……………一八三
- 其二、京都……………一八八

十、東北人物の總まくり……………二〇九

- 其一、總論……………二〇九
- 其二、宮城縣……………二一五
- 其三、福島縣……………二二一
- 其四、神戶……………一九五
- 其五、岡山……………一九八
- 其六、廣島……………二〇二
- 其七、福岡……………二〇四

- 五大使二公使……………二四三
- 伯大隈と原敬……………二五〇
- 藏相及實業家……………二五六
- 軍政部の首腦……………二六二
- 軍令部の樞軸……………二六九
- 攻城野戰の雄……………二七三

十一、言論壇の權威たる黒岩周六の價值……………二二六

十二、我が戦局舞臺面の人物……………二三二

- 一、序論……………二三二
- 首相大隈と外相加藤……………二三五

化の皮

口上

山野芋助著

題して化の皮といへるは、一皮剥いた名士の裸體觀である。中には随分其卑屈陋劣を痛罵したものであるが、又尊敬すべき眞骨頭の發揮に努めた點もある。要は是を是として非を非とした迄だが人を觀るは猶盧山を見るが如く、見ようによつて各々差異があるから吾人の主張する所が強ち正鵠に中つてゐるとは云はない。吾人は單に吾人だけの所見を披瀝した迄である。

書中の各章は曾て某誌上に連載したものだ。断片となつて散

俟するを惜み、茲に之を網羅し聊か同人に頌つことゝした。
 因みに云ふ執筆者は、鶴崎鷲城、鐵拳禪、戸山銃聲、無敵齋主人等で、
 何れも當代の人物、月旦界に聞えたる猛者である。

一 偽博士・眞博士

十餘年前には博士といへば、其學力人格共に非常に偉いものゝ如に
 想はれてゐたが、今では其頃の學士程にも値されぬ様になつた。是は
 畢竟博士候補者の數の殖ゆると共に、學閥の跋扈年々甚しく、一方には
 所謂運動の益々劇しき爲に、粗製濫造品も随つて増加したからで、眞に
 學問、人格上より博士たるの價値あるもの果して幾何人ぞ、將又博士以
 上の人格學力を有しながら、單に肩書なしの學者として立てるもの幾
 何人ぞ。詮じ來れば博士の學位は有つても無くても、別段其人●價値

に影響のあるものではないが、俗間では猶其を以て其人を軒輊し又學
 者を以て任じ群盲の上にながら、運動或は學閥の餘光に由り、全然
 博士たるの價値なくして博士となり、傲然として俗流に誇るに至つて
 は、實に俗物以上の俗物ではあるまいか。而して憾むらくは今の博士
 中には是等の瓦礫の多くが混入し、博士以外に博士以上の金無垢もあ
 り、門外漢をして頗る取捨の別に迷はしむるものがある。吾人とても
 固より門外漢だが、少しく研究の眼を放つて、彼等の眞骨頭を敲いて見
 やると想ふ幸にして、標的に命中するあらば、茲に射出したヒヨロ／＼
 矢も強ち徒爾でもあるまい。

文學博士三宅雪嶺

彼れ本來の畑は哲學で、其人亦茫として多く語らず、如何にも哲學家

らしい處があるが政論にも趣味を有ち、明治十六年東大哲學科を出で、
 習時文部の小吏となり専門學校の講師となるの外、三十餘年を通じて
 筆の人たり。二十一年中志賀重昂、辰巳小次郎等と雑誌「日本人」を發
 刊し、國粹保存を鼓吹して歐化主義心酔の弊を排倒し、次で江湖新聞の
 主筆たり、陸羯南の新聞「日本」を起すに及び之に參加して侃諤の論議を
 なし併せて「日本人」に筆を執る。後伊藤欽亮の日本を主宰するに及び、
 新に「日本及日本人」を發刊し、専ら政論と哲學論をやり二十餘年來一日
 の如く、文名、人格、兩つながら大に江湖の喝采する所となつてゐる。
 彼は訥辯で毫も外觀を修めないの、一見した所純然たる田舎老爺
 だが、其頭腦は頗る玲瓏透徹で、其哲學觀は舊著の「我觀小景」王陽明、宇宙
 及久しく「日本及日本人」に連載の……に見れば、彼は東西哲學者以
 外に別に截然として一家の識見を樹立せるを窺ふべく、又其政論に至

つては、縦論横議、克く時弊に觸れ不斷の正氣を發揮し、殆んど海内獨歩
 の概がある。政論家としても哲學者としても立派な者で、夫の職々た
 る一夜漬の博士連とは全然科が違ふ。殊に人格の高潔、跌宕、毫も俗塵
 に染まず、世は物質的文明に煽られ、智者も愚者も滔々として華奢淫逸
 に流るゝが中に、彼に接すれば彷彿として太古の人を見るが如し。而
 も其見地は常に一步も二歩も時流を抜き、其訥々の一語は他の千言萬
 語に勝るの雄辯たり、其膝を容るるに足るの陋屋も、彼にあつては他の
 大厦高樓以上の樂郷たり。其德操、識見、文章は、儘に昭代の珍たるを失
 はざるものである。

法學博士高橋作衛

國際法學者には什麼も粗雑な頭の人が多い、老人株では寺尾亨有賀

長雄の如き降つて戸水寛人及彼の如き皆然りである。彼は漢學者高橋白山の子で、東洋式豪傑風に養成され、議論も頗る粗大である。東大學生間では新渡戸と彼とを以て、悪い頭の標本としてゐる。然れ共氣焰家で、昨年日米問題の沸騰するや、熾に米政府の非違を鳴し、帝大より本郷座、早稲田學寮等で得意の攻撃演説をやつた。當時彼は此問題は六七年前より研究せりとして、微細に説破し且つ其材料を國際法研究室に陳列して公開した。如斯な態度と熱心は、太く大隈伯のゴ機嫌に適ひしものと見え、現内閣の成立と共に彼は法制局長官に擧げられた。先づ是迄は無難でお目出度、曩日臨時議會で反對黨の井ノ角に揚足取の連發をやらるゝや、彼は忽ち答辯に窮して青くなり赤くなり七面鳥のウロ／＼然たるには、流石の大言伯も耐りかねて席を滑り出で、例の大風呂で辛つとお茶を濁して引下らせたが、爾來下らないのは伯の胸

中で、是では次の本議會で如何なる耻を搔かすやも知れずと云ふので、長官の椅子より抛り出さるとも沙汰された位だ。余輩は彼が國際法に於ける造詣の深淺を知らざるも、高の知れたる井ノ角風情に斯く迄に泡を吹かせらるゝとは、意想外で、若しも花卓の如き斯道の猛者に攻立てられなば、忽ち木ツ葉微塵に粉碎されねばなるまい。是では彼が博士の値も、人物の貫録も知れたものではないか。

醫學博士荒木寅三郎

明治二十二年東大醫科を出で、次で獨逸ストラスブルグ大學に生理學を研究し三十年博士となる。其間高等學校より京大教授として勤績せる純粹なる學究で、勿論博士としては粒選りの方だ。由來醫家には變りものが多いが、彼も醫の外には何を解せぬ連中とは、趣を異

にして、漢詩が名人で同じ醫博の土肥慶藏(譯軒)農博勝島仙之介(仙坡)等と竝立し、本職の漢詩家をして辟易せしめてゐる。人と爲り極めて溫和朴直。服装の如何などは聊かお構なしといふ風なので、曾て東海旅行中某旅館で行燈部屋に窮命されたこともある。

此仙人的な學究が今や京大總長に推され、聞ゆる辣腕俗才に長けた澤柳政太郎の後を襲いだのは不思議な現象ではあるまいか。是より先き京大では谷本富博士を澤柳總長が敵首し、續いて法科教授の紛擾問題で澤柳も退き、奥田文相も味噌を付け、それより猶盛に暗闘を續けてゐたが、如何な餓鬼の競合も、その頭首なしでは體面を保つことは出来ない。ので、到頭無爲の荒木仙人を引張り、い出して間に合せの總長とした譯な相だ。ゴ當人は總長となつたからとて別段有り難がる程な俗氣もないから、存外無事に治まつて行くかも知れぬが、結局は法科の理窟屋が飛出して眞の頭首となるだらう。

文學博士澤柳政太郎

學校統理者として或は政治家としての彼は、手腕もあれば進歩した識見をも有してゐるが、博士として彼は如何なる蘊蓄と創見とを有するかは全く疑問である。彼に幾多の著述あるも皆是れ警世慨時の作で、一も學問の蘊奥を拓いたものはない。然るにも拘はらず、這次の博士會で多數投票の下に其選に中れるは彼が學校長として或は文部行政官として久しく盛名を馳せたる爲め、其名に眩惑せしめられたる結果らしい。而して當時均しく候補者たりし大内青巒、吉田靜致の如きは誰も彼も當選疑ひなしと思ひしものが落選するなど、詮じ來れば今の博士號程馬鹿々々しいものはない。

偽博士。眞博士

澤柳てふ男は決して學究的ではない、一種の政略家で機才もあれば
 膽力もある、充分に手を揮はしめたら文相の仕事位は朝飯前にやつて
 のけるだらう。彼が往年東京高商に葛藤起りし際、校長松崎藏之助に
 代つて善後策に成功し、第二高等學校の紛擾にも亦克く鎮定の功を奏
 せるが如き、皆其手腕の凡ならざるを知るに足る。だが京大總長とし
 て教授連の包圍攻撃には如何なる彼も手も足も出さず、否出さず
 るにあらす出せば出す程火の手が熾になり遂に退却の止むなきに至
 つたので、是は猿が木から落ちたとでも云ふ如なものだらう。兎も角
 も彼の前途には猶光明を認むるが、其博士は不適當であるから速かに
 返上したが宜かろう。

文學博士竹添進一郎

明治十七年朝鮮公使として大縮尻を演じ、社會の惡罵を集注せられ、
 特に同郷の熊本人よりは、速かに割腹して卑怯陋劣、國威失墜の罪を謝
 すべしと迄攻撃されし程な腰拔である。抑外交官として彼が如き無
 能者を差遣したのが大間違の基だが、彼とても充分大義名分の在る所
 は知つて居るに拘はらず、サテ實際に臨めば趙括が兵法で覺とならむ
 とは愚の骨頂だ。兎角學究の仕事は多くは此類だが、漢學者としては
 博通の方で、就中左氏に最も精しく又文章も流麗精妙で、其著棧雲峽雨
 日記の如きは、多少の和習は免れないとしても、容易に得がたき名文で
 ある。川田進き重野島田根本の諸老去り、今や僅に三島土屋屋野の徒
 を存するの時、彼が漢學の博士となれるは其當を得たものだ。彼も當
 初より單に學究として一貫せば、醜名をも負はざりしならむに、彼自ら
 彼を知らず、人亦彼を知らずして前半生を葬りしは寧ろ氣の毒とも云

へようか。

二 黄金と結婚せる大學教授の卑屈

赤禪と佐渡の土、兩手に花の博士連中

常識に乏しく實務に迂なるは、古來學者の通有性と稱せられて居る。日清戦役の當時、理科の某教授は専攻學科研究の爲め、足一步も研究室を出でず、爲めに開戦も戦況も又平和克復も知らなかつたさうだ。要するに學者の眞價は亦茲に存するので、常に古今の書籍に没頭し研鑽日も維れ足らずとなし、名譽も富貴も其心を亂すことを得ざるの點は實に尊敬すべきものである。併し斯くの如きことは、武士は喰はでも高楊子で濟まして居られた時代ならいざ知らず、今日のやうに生存競争の激甚な物價騰貴の時節では、一簞の食、一瓢の飲樂み、其中にありと言

つてる譯には行かぬ。斯學の權威たらんと欲するも衣食住の先決問題から解決してかゝらねばならぬ。而して大學教授の俸給なるものは講座を持たなくても官吏の俸給令に依つて貰へる。講座があれば講座料として五百圓餘分取る。その時間も多くて一週に五時間、少い學科になるとタッタ二時間のものもある。乃で一般官吏に比しては非常に割が可いのである。然るに教授自身では大學教授ほど薄給なものはない。故に不得已内職をやると言つて居る。いや事實に於て内職をやらない先生は金のある連中ばかりである。學者だつて血の通つて居る人間である以上金の生る木を庭に植ゑ好いたお方と暮らすのは、何麼學究先生でも大賛成であらう。されば黄金結婚の流行るのも無理はない。

死んだ穂積八束博士の如きは、深川に灰を降らして區民を苦めた貪

慈悲道の淺野總一郎の娘を貰つたばかりに、教授となり博士と成り、本邦唯一の憲法學者と威張るやうになつても、嬬の禪の餘香を拜せない譯には行かぬ。少々浮氣されても指を喰へて居なくてはならぬ。終には小杉天外の小説「コブシ」のモデルにされて了つた、されば博士は後年嘆じて曰く黄金結婚したのは我輩が終生の過であつたと。この嘆聲を發するのは當に入東博士ばかりではない。世間の尊敬を受けて居る博士連中にも仲々多いことである。今茲に赤禪の威力に依つて内職もせず、ノホ、ンと濟まして行ける先生方を一寸失敬することと爲た。

遺留財産十萬を受けた土方博士

法科大学學長として、文官試験委員長として、且つ學者中の金満家と

して有名な土方博士は、亦英法學のオウソリテイトとして有名な者である。其民法の講義には、今尙ほ十年一日の如く、舊民法から羅馬法、獨逸、佛蘭西、英米と列べ立てゝの舊式には、大に惱まされる。殊に獨佛語に至つては、餘程怪しいと死んだ梅博士などは冷かして居たが、英法に至つては、天下一品、テリ教授の衣鉢を受けて更に巧みなるものである。この先生は、麴町に宏壯な邸宅を構へて居るが、それも俸給や著述位では、逆も、あれだけの財産は出來ない。或は近頃ハケ間敷問題でも含んでるか否爾うではない。博士の妻君は、神戸の素封家小寺家の娘で、當主にして代議士たる謙吉は、博士の義弟にあたるのである。されば先代が死んだ時には、博士も民法の規定で遺留財産として十萬金を得てニコ／＼ものであつた。あゝ持つべきものは女房かな。嬬大明神と崇め奉てセツセと赤禪の餘香を拜せなければならぬ。

抑も小寺と云ふのは先代が随分非道なことをやつて金を貯めたので、當主と成つては代議士と成つて交際を求めたり學校を建て、學生の便を計つたりして居る。それも罪亡しの爲めではなくて全く虚名を賣らんが爲めである。又法科大學には小寺家より寄附した小寺奨學金と稱するものがあつて、其利子を以て毎年外國法の成績優等なるものと、論文の優良なるものに賞金を與へる。之もある一種の道具に使つたとせば、學生こそ可い面の皮である。

博士が大學を出た時、先代の小寺は、流石毛色の變つた成金と見えて、博士の才に惚れ込んで持參金付きに娘をやつた。愈々話が纏まつて博士が神戸の小寺邸へ乗り込む一段と成つた。三國一の花婿様がお出での時刻と伴や大番頭、小番頭は神戸の停車場へ迎へに行つた。然るに博士は神戸より一つ手前の三ノ宮驛で下車して洗い晒しの汚い衣

服に雪駄ばきで小寺邸の通用門に案内を乞ふた。私が東京から參つた土方ですと云つても、其風采から服装から何うしても三國一の花婿様とは受け取れなかつた。女中や書生も馬鹿に爲て居たが念の爲めに停車場に使を走らせたなら、時刻なり齡恰好なり博士に相違あるまいと、待ちばけ喰はされた連中は、夫れと計り歸つて見たら、正直正銘偽りのない婿殿だつたので、目出度シャン／＼と納まりにけりだ。

小糠三合も持たぬ加藤正治博士

半藏門の前に餘り目立たぬながら、ドツシリと爲た建物が二つ列んでゐる。一は加藤正義、一は加藤正治と小さな標札を打つてゐる。正義は日本郵船の副社長、正治は法科の民事訴訟法の大家である。先生は俳句に巧に書に巧に多藝な人である。本職の民訴は元より立派な

もの。學生の受けの可いのは強ち點が甘いからばかりでもあるまい。先生の主義として學生は講義を聽いてるから會得したものと思ふ。故に答案の上の出来不出来は何等標準に成らぬ。社會と云ふ大きな一生の試験場に於て常に試験せらるゝから不勉強なものは其時に解る。故に學校で採點に重きをおく必要がないと云ふのである。

博士は正義の駙馬であるが性格は全く異つて居る。正義のやうな金儲けと折花攀柳の外何等趣味なき野卑なものではない。學問研究することゝ、嬖大明神と奉ることより外醜聲の聞ゆるものがないのは先づ以て結構な婿殿と申さねばならぬ。

越禪の牧野教授

恩賜の銀時計を教壇の机に置いて、泰西の學者を一息に吹飛ばす所は

實に凄まじいものだ。何しろ木曾山中の宿屋の息子が恩賜の時計を頂戴して、佛蘭西法出身であつて獨逸の本が讀めるし、檢事であつて帝大其他私立大學に教鞭を執つて居るし、尙ほ其上に著述もやる。更に又一年に二人の子を産んで、而もそれが双生兒でないといふ精力には驚くの外はない。併しかくは研究する餘裕がない爲めに才に任かされた附焼刃は自然薄つ筈に成つて了つて、矛盾した説も往々にして見出すやうに成つた。乃で洋行前あたりから刑事政策や哲理のやうな方面に研究を代へた。要するに先生の病とする所は「振ることである。暫らく鋒を收めて研究せなければ志田博士見たやうに成つて了う。

先生の妻君は男爵坪井氏の女である。優等を以て卒業した先生は、虎に翼を添へんが爲めに華族にして金満家の女を娶つた。然るに事志と違ひ自己の欲求を満足せしむることが出来なかつた。それか

として、苟も最高學府の教授たる者が無下に追ひ出す譯にも行かぬ。不得已私立大學へ學問の切り賣りをやつて居る次第である。

三 帝大新七博士の裏面

井の哲博士の犬糞的復讐

井上哲次郎博士と云へば文科大學の元老として又篤學の士として知らない者はない。併し博士が常に口に自ら標榜爲て居る所の人格の點に至つては大に非難すべきものがある。博士が言つた學生の豐年たる明治二十九年卒業の文學士には知名の士が多い。其中でも京都大學の文科の教授桑木博士は故高山樗牛等の俊才を抜いて首席を以て卒業した井上博士は其才に惚れ込んで妻はすに自分の娘を以

て爲んとした。同博士の後援を得ることは學者として世に立たんと爲る當時の桑木博士にとつては非常に有利なことであつた。然るに此時既に桑木博士には戀人があつた。恩師の命と雖も此事ばかりは自己の意思に反して服従する譯には行かぬ。乃て斷乎として之を拒絶した井上博士も不得已桑木博士と同期卒業の姉崎嘲風先生に其娘を下し玉ふた。嘲風先生は元より樗牛を擔いて自己の名聲を博せんと爲た他禪主義の人であるから恩師の命に背くは弟子たるの道に非ずとなし直に之を受けた。三拜九拜以てサイノロヂーを極め込んで居る。乃で嘲風先生は素質凡鞍なものにも不拘井の哲博士が愛嬢の郎なるが爲め宗教學研究の名の下に留學を命せられた。然るに認識論に於ては天下一品と稱せらるゝ桑木博士は井の哲博士に睨まれた爲め論文提出して博士と成つたにも不拘講座も與へねば又洋行も爲せ

なかつた。京都大學に行つてから漸く洋行させられたのである。井の哲博士が私怨を以て桑木博士を逐ふたのは東京の學生にとつて非常な損失と云はねばならぬ。

性慾の瞑眩せる宮崎博士

醫科大學の法醫學教室の一隅に塾居し、和漢洋乃至は古今の書籍に没頭して専心一意、法制史の研究に耽つて居るのは、法科の老教授宮崎達三郎博士である。法醫學の教室と云へば他殺の疑ある場合、其筋の囑托に依つて解剖に附する所であつて、手の一本、足の片方など瓶の内へ漬けてある。乃で其教室の外さへ夜など通るのも氣味が悪い位だ。併し博士は一週に四時間講義のため三十二番教室へ行くより外、少しも戸外に出ない。上野の花が散らうが不忍の蓮が咲かうが博士

にとつては全く没交渉である。のみならず如何なる天女が迂つたつて轉んだつて又は吉原の仲の町で華魁が外八文字を踏まうが踏むまいが此等の事實は決して博士の遊心をそゝることが出来ぬ。老いたりとも雖も博士は未だ六十に達せないから折花攀柳の研究に對してもまつたく趣味がなくなつた譯でもあるまいに之は亦法外の悟り方。併し麴麴の廣告ではないが馬鹿か仙人か了解に苦むのである。併し博士だつて眞逆木の股からも生れは爲まい。お袋の胎内に十ヶ月も辛抱して生れて來たのだもの、芳ばしき酒の匂、甘き肉の香を嫌いな筈がない。否博士が壯年獨逸留學中の發展方は一通ではなかつた。或はラインの畔、リンデン樹下の夕涼みには戀人と手を携へて岡燒連の氣を揉ませたり、或は遊仙窟のピヤホールに耽溺して猛烈なプロに戯るゝのは申すに及ばず、性慾に對するあらゆる快樂を爲盡したさうだ。

かの激烈なる傳染病患者が其病毒の爲めに瞑眩した場合には、同一病氣に對して絶大なる抵抗力を生じて其病毒に感染爲ないやうに、博士は性慾に瞑眩せられたので、あらゆる誘惑に對して強度の抵抗力を生じたのである。されば富も名譽も又は女でさへも博士の神経の一端をも昂奮させることが出来ない。

悖德的福人、上田博士

上田敏の名が文壇に現はれてから既に二十年となつた。清新の想と瀟洒たる筆とを以て多數の讀者を魅しつゝあつたのも思へば隔世の感がする純文學を出たのは普通なら仲々博士には成れないが、大學の教授だけは年數さへ立てば博士に推薦せらるゝやうに成て居る。然るに彼は東京大學に居る内は何年經つても博士にも成らねば洋行

もさせられなかつた。之に付いては大に理由がある。學生時代の彼は故外山正一博士の恩顧を蒙つたことは非常なものであつた。然るに教授に成つてからは兎角面白からぬ態度をとつて居た。殊に博士が死んだ時なんかは頗る冷淡なものであつた。此事が教育界の元老濱尾男爵の知る所と成つた。謹嚴なる男爵は爾後敏博士を見るに蛇蝎の如く、恩義を知らざるは禽獸と爲し終局東京大學を放逐して了つた。

夫れから敏博士は京都大學に行つて洋行させられた。英國に行つても發展ばかり爲て居たので一定の留學金では逆も追ひ付かぬ其時京都の大學から書籍購入の爲め博士に對して多額の金を送つて書籍送附を托した。早天に雲霓を得たやうな博士は其金を費つて了つた、併し流石に氣持が善くなかつたと見えて原稿を書いたり色々奔走し

て金策に腐心した。その内に留學の期限は容赦なく到來した。可い加減な書籍を集めて歸つた。大學でも知つて知らずにか表面を旨く誤魔化して置いた。然るに敏博士は恬として恥づる色なく不相變教壇の人として學生に見えて居る。(以上乾坤一擲樓主人)

骨董教授三幅對

日に新に、日に日に新なりとは古い支那の文句であるが、開けた大正の今日而かも最高學府の教授連にも其研究的向上心の程度が尙ほ四千年前の支那人にすら劣るものが居るとは實に情ない話である。それは法科の和田垣新渡戸金井の三博士であつて、共に勅任一等の元老株である。和田垣博士の不眞面目なことは有名なことであるから最早茲に述べないたゞ學校を翫弄に爲て居る迄は未だ可い内だが、教壇

の机の上に足を上げて駄洒落を言ふに至つては實に學生を侮辱爲たものである。有爲の青年をして貴重の二時間を不潔な教室に監禁爲て、不健全な思想を注入する有害無益の教授であることは看過す可らざることである。

毛唐を嬾に持つた新渡戸博士が多額の金を生活費に要するが爲め、ヤレ著述ヤレ原稿ヤレ講演と本職そつち退けて金儲けに熱中爲て居ることは隠れもないことだが、絶えず神經衰弱症に悩まされて居ること迄も、お神さんの責任に歸すべきや否やは賢明なる讀者の批判に任せやう。博士は志賀矧川や内村鑑三など一緒に札幌農學校を出た男で、殊に其頃は米國南北戦争の勇者の下に精神的訓練を受けたので、當時の學生には偉い人間が出た。併し博士は米國に渡つて其實利主義に感化され、且つ妻君迄毛唐を貰つたので俗氣紛々たるヤンキー臭

を帯びて温雅な學者としての品位は全く無くなつて了つた。先年後藤蠻爵に扈從して洋行した時なんか外國人からは後藤の秘書役見たやうに扱はれても却て名譽と心得て居る又方々の雜誌に健筆を揮ふけれど其言ふ所は如何にせば成功するかとか予は如斯にして學者と成れりとか云ふ調子で薄つ籠なことを教ゆるに過ぎない。和田垣博士には幾分の茶氣を見出すことが出来るが新渡戸博士に至つては俗氣満々曲學阿世迎も人の師表として仰ぐに足るものがない。

次に金井博士の不勉強なものには驚くの外はない。大學で講義爲て居るのは二十年以前に著した社會經濟學其儘であつて何等進境を見ない。且つ今尙銀貨本位論を固持する者は博士を措いて他にあるまい。西洋の學者は吾は斯學の權威なりと云ふ抱負と信念とを以て勉強爲て居るのに、我最高學府では半世紀前の骨董を擔ぎ出して居るやうで屑屋に拂下げらるゝ許りである。

遊蕩兒岡松博士

民法の學者として有名な岡松參太郎博士は曾て滿鐵理事として辣腕を振うた人あり若し博士に對して著述を勸むる場合には必ず斯う答へる。恩師富井博士の著書民法原論が完成を見ない内に吾輩の民法を發行したら先生の本が賣れなくなるだらう。これは弟子の情として忍びざる所先生の著書が完結するのを俟つて吾輩の本を出版爲やうと併し其の如き民法の大先生も大學時代には非常な遊蕩兒であつた。夫れが爲め大學も退學處分になる所だつたのを穂積博士が

其才を惜んで幸つと教授會を納得させたから處分だけは免かれた。博士は大學時代のみならず蠻骨稜々を以て天下を風靡した一高寄宿に居た時だつて遊んで居たさうだ。流石に同僚の制裁を恐れて公然とは行かなかつたが毎夜寄宿の土手を飛び越えて通つた。其頃は根津に遊廓があつたので東寮の東の土手を越えたと下は直ぐ根津權現だから起床時間に歸つて來れば誰れも見ざる者がない。然るに或朝早く當直の體操教師が巡廻して居る時に東の土手から黒い影が朝霞の裡に動いた。ヂツト見て居るとツト飛び下りて南寮の方へ行く、此奴的切曲者と捕へて見れば成績優秀の博士であつた。平素に徴して疑念はないが役目柄詰問した。すると博士は逐一白狀に及んで潔く制裁を受けんことを申出た。教師は又解つた男であつたから斯麼ことは若い時には有り勝ちの事で深く咎むるに足らない。のみならず

英才比なき青年をして一生埋れ木と爲すに忍びない。悔い改めしむるに如かずと懇々説諭を加へて人の見て居ないのを幸に許してやつた。

爾後十年岡松氏は教授となり博士と成り民法學のオーソリテイとして名聲隆々たるものがあつた時に體操の教師は酔ふと何時も斯う言ふ岡松君も最早天下の學者として雷名を轟かすやうに成つた今日だから言つたつて差支はあるまい。實は俺があの時規則一點張りに冷靜な態度に出たなら君が今日あるを得たか何うか疑問である。(以上城北生)

四 流行十二博士の一長一短

世は有爲轉變の習ひなりけり近來滅切り相場の下落したるは廟堂に政を執る大臣の君と學びの庭の博士の方程式激しきは又とあるまじ、

大臣の君は暫らく云はず、茲には先生博士とて、云はるゝ程の馬鹿でもないに、何馬鹿セ、斯馬鹿セと馬鹿扱ひにせられ給へる、人間様を鳥居の外から拜み倒して見せうがな。

井上文學博士

いの一、番井上哲次郎、文學博士の肩書、後世大事に推し頂いて、帝國最高の學府とやら、森川町は赤門で有名な、文科大学に納り返つて御座る。君は福岡の黒田藩侯のお目鏡に叶つたのが、抑々開運出世の端緒、藩侯の助力に依つて、遂に文博に迄漕ぎ付けた腕前は、却々見上げたもの。さるにても、藩侯先見の明も亦偉いかな、君は去んぬる明治十三年の大學出、和田垣謙三、木場貞長等と時を同うして世に出でた。其演説は下手ではないが、夫れよりは其手振り手真似が、ずつと巧いとか、學説に

權威ありなぞとは、眞赤な嘘、甲羅に苔が生える迄、官僚の流に浮沈する事三十年、阿世の説を流布すること、屢也、其國體に到つては、宗教臭味のブンくとして、只では鼻持の出来ぬぞ、恐ろしけれ。嘗に宗教哲學の造詣のみならず、中々に多才博識、大抵な問題は、木葉學者の及ばぬ點あり、何でも相當に解決するのは、偉いのか、馬鹿なのか。由來博識の先生に、深味は無く、廣くして浅いのが、普通の相場也、之を稱して學界の俗物と云ふは、蓋し博士の如きは、俗物の資格を具備する者かね。

青山醫學博士

醫學博士の青山胤通は、恐れ多いが、先帝陛下の御不例で、三浦と共に兒童走卒の口端にさへも上るに至り、それに引換醫者で男爵を貰つた、隨一人の岡玄卿が、すつかり味噌を付けた、慘めさつたらなかつたのは、

今尙人の記憶に新たな處。博士は曩に黒死病で死に損ねて却つて位一級を進めたもの、恐らく世の中の幸福者の中の幸福者でがなあらう。博士は東大醫科學長、内科の泰斗と云はれて居るが、醫家としての技倆は別に雋秀にも非ず、學深遠の域にも達して居らず、博士の博士たる所以に至つては、殆んど捕捉する所難しと云ふが、最も公平の見たるに近からう。而も帝大に宛然帝王の觀を爲すもの、其人格の平々凡々たるお醫者風情に、似合はぬ點のあるにもよる可し。曾て大學手術科に在りて尿毒症治療に用つたコップで、水一杯ぐつと呷り、満室の學生に呀と云はせた、凄しい藝當の其後で、筋脈を断たすんば善工と爲る能はず、糞尿を掬せずんば、善農と爲る能はず、何ぞ是式の事に怖れて、天下の大醫たる可けんやと、遣つて去けたは、天晴れ偉なる所以を示したのかも知れぬ也。

古在農學博士

歴史的のモニユメント更に無く、而かも新開地らしき嫌味たつぶりの駒場には農大あるを以て、其名聞えたり、博士古在由直は其學長として、細菌學に秀でたるは、我學界の敬意を拂ふ處、學校では農産製造の講義を擔任し、卓抜の識見に時々學徒を煙に巻くとか、性格頗る剛直にて、所信を以て動かざること泰山の如く、嘗て濱尾總長と大に論争し、遂々濱尾を屁兒垂らしたのは、今も尙ほ殘る逸話と御座い。

櫻井理學博士

理學博士の櫻井錠二は、安政五年の生れ、理科大學中での最長老、先年

濱尾が總長辭職の後を、山川が新任する迄、總長事務取扱を命せられて居た位だ。其昔既に明治元年に化學研究の爲め英國に留學を命せられた程な當年の新智識、兎も角今も化學界の重鎮たれど、殊に急進機能の激烈な化學界の趨向は、動もすれば博士を置いてきぼりにするではないか、あアら危い事である哇。

渡邊工學博士

磊々たる其性格と、學生の爲めならば如何なる努力も吝まざるとで、東大工科學生の敬慕措かぬは、工學博士渡邊工科學長で採擷科の主任其人だ、其如何に學生思ひの厚いかは、學生の會合又は遠足に滅多に博士の姿を見ぬ事なしと云ふを以つて知られたり、まつた洩らせぬ一事此處に在り。そは工科大學の入學式に、高利貸からの借金を新入學

生に諄々と戒むるなどは、全くの親切と云ふものであらう。工科の學生果して斯言に聞けるや否やは、元より保證は出來難い時には採擷は冶金を顧みず、大功は細瑾を省みず、てな、駄洒落で以て學生を笑はせる事もあるなど、フツク、ラして綿の如き暖か味の、何處となく仄見ゆる、それで鑛業界に無限の勢力中々大したものぢやゲナと承はつて成る程、福德は圓滿の上に授かる餘慶かな。

算法學博士

東大法科は多士濟々中に少壯で異彩を放つは、法學博士算克彦教授、専ら民法や國家學等、公法部面の學科を擔任しながら、其説く處は、そんじよ其處らにうちやく、せる月並の公法學者と、大部其毛色を異にして居るのが、面黒い博士は大の古神道の研究家、凡ゆる問題を古神道も

て規律し、古神道に依つて宇宙間の現象を解決せんとして居るのは進んだ様な後れた様なこと、許少々古神道でも解決出来ぬ節なりけり。更に又博士獨特の使用の語あるなどは何處迄も面黒い限りなるが、中にも毎時間五六度聞かざるは「表現」と云ふ言葉法科の學生は頗る當てられ居るを一向御存じない、益々盛んに亂發して、我法學界に表現の語を用ゆるは、我輩を以て嚆矢とするてな大得意博士は曰く近年我輩の意を諒とし、表現なる詞を用ゆる者の多くなつたは、大に我意を得たりである、其氣焔當る可らず也。されど博士の所説の眞意が徹底する時機の在りや否やは、矢張り古神道でも恐らく解決が出来悪くさうなは、天道様が無理かいな。

勝本法學博士

博士勝本勘三郎は硬骨の聞え有り。由來京都大學の古參教授に、愛錢の風盛なるに反し、博士は絶えて蓄財の念を抱かず、一身の計に冷淡なる許りでなく、親戚古舊の爲めに其財を散じて顧みることもなし。會て東大に刑法學者を聘せんとして、博士に議るや、博士は斷然之を拒絶して、予は骨を吉田山上に埋めんのみと壯語したるは、如何に博士が京大愛着心の強きかを見るに足らずや。博士は兩三年前洛北白川村に茅屋を建て、時々前庭に米を搗き、後畝に糞尿を擔ふて自適し、亦他念なきに似たりと云ふ。而かも其學殖と人格とは正に京大法科の重鎮にして、曩に澤柳か總長の任に京大に赴き、全大學教授を會して、一場の所信告白を試むるや、質問ありと叫びて更に意見を質したるは、實に博士にして這回の對總長挑戰の第一矢は、早くも當時既に投せられしを知る可きか。

青木法學博士

現時私學界の覇者たる慶應義塾が其教授養成の苦心と努力を傾倒しつゝあるは人の知る處同塾が能ふ限り自校出身の者を擧げて其教職に居らしめつゝある其中に博士青木徹二あるは即ち義塾の儲けもの也。博士堀江と共に義塾の代表的學者として世間に認めらるゝ青木は商法の大家也其の著書商法論が初學者と専門研究者とを問はず歡迎せらるゝを見れば説く所平易にして而かも其蘊奥を極めしかを知らるゝ也彼は斯の點に於て學究の觀あれど他面には又政治の趣味を解し、昨年の政變に際しては憲政擁護會の一員として天下に侃諤の議を唱へたるなど彼の必ずしも學究に終らざる豫行と見る。彼は意志極めて堅固にして權勢に阿附せざる近時稀に見る快男兒とは或は過褒ならんも兎に角我私學界一方の權威にして而かも義塾の至寶たる人物の一たるに相違無し。

高田法學博士

早稻田學園の經營者として其柱石たる者を法學博士高田早苗とす。高田は埼玉の産にして明治十五年の東大出身彼は早くより小野梓の民權論にカブレ身を社會教育の上に盡さんと誓言した程の人物なれば赤貧洗ふが如き中に處して尙官邊の招聘を退け營々致々として早稻田の學務を見ること三十年一日の如き斷乎たる其志の程を見らるゝ也。博士は學長としての事務を見るに專にて講座の一だに上る事なき代りに早稻田の瓦の敷迄も誦じ居るにはあらぬかと云はるゝ程に事務に没頭せり。されば法學の其肩書に對しては學殖を以て知

らるゝより寧ろ私學經營博士としてが却て重きを博士に加ふるが如かりけり。

波多野文學博士

早稲田大學の哲學科は恰も三頭政治也。博士波多野精一、金子馬治、藤井健次郎の三者に依つて三分せられ、各其一を領する也。波多野は哲學史と宗教學とを擔當せるが彼は明治三十二年東大哲學科第一位の卒業生にて名譽の銀時計を得たる一人、遠藤隆吉、福來友吉、加藤玄智等の諸博士と同期なり。其帝大卒業前東京都の帝大早大の三方より招聘を受けたるが其何れに行く可きやに迷ひにき。彼は信仰の師植村正久の意見に従ひ遂に政教一切の羈束を脱れた私學早稲田を選びたり。由來日本の博士號は政府の授くる所なれば官學者流の獨占物

の姿にて門戸は堅く鎖されしが卒業後直に私學に投じた波多野が同輩の早く博士を授けられしに拘はらず私學に在るを以て偏狹なる博士會に顧られず其稱號を得るに至りしは極めて最近の事に屬する也。特に私學に就きたる波多野なれば區々たる稱號の如き元より彼の意とする處に非ざりしならんも學界の先輩は多くは賣名に汲々乎たる其中に是れは又天賦の恬淡敢て名を賣らんともせざれば其學識の擡するあつて而かも世俗に聞かるゝ處少きが如き博士が研究以外他念無きを見るに足らん也。されど博士は哲學一點張の冷血漢ならず文學藝術の鑑賞力にも富みたるは哲學者にして音樂家たる恩師ケルベル博士の感化に因る。博士は官學より出で、今や私學早稲田文科の中堅にて純早稲田兒たらんとせるは早稲田の前途に幸する蓋し少ならずとせじぢや。

田中法學博士

早稲田商科の學長に博士田中穂積がある。博士は信州の出家富んで身蒲柳の質、中學科さへも碌々修むる能はざりき。彼れ博士が今日あるは、初め早稲田の講義録を讀修了して上級に編入せられ、遂に頭腦の凡ならざるを示したり。業を卒へて海外に留學しぬ。由來信州人の特質として執着心の強烈なるは、到底他の企及する處に非ざるが、博士の如き身の蒲柳を以て、徒に學業を廢せざりしは、確に立志傳中の人物也。彼は留學前早くも、浩漭なる「高等租稅論」を草して、學界の注意を喚起したるが如き、既に有爲の才を抱きたるを見る可しとなす。歸朝後日本最初の商科大學を創設し、三田一ツ橋赤門の外に、實業界に勢力を扶殖せんと努力しつゝある手腕に至つては、其絶倫の精力と煥發せる才氣共に學界稀に見る所、新進早大商科の學長として、最適の人材たるを失はず。

浮田法學博士

先年京都同志社が大採に採た其結果、二人の人材を早稲田に移植したるは、博士浮田和民と、安部磯雄是なり。共に同志社出身の偉材、博士は其學甚だ廣汎にして政治學、西洋史、社會學、倫理、宗教等、早稲田學園に擔任する處也。彼も私學出身の博士として、學界の至寶たり。其講義の特色は多岐に亘れる、以上の諸學科を巧に連絡を取つて、妥當なる結論に到着するに在り。彼有名なる人工避妊論は、博士の學說にして、社會學を經緯とし、案配して得たる研究の結晶也。博士も昨年の政變には、憲政擁護會に出馬し、慶應の青木博士と共に憲政の爲めに氣を吐き

たり。風貌の瘦枯と低聲とは、恰も學究の型に似たるも、其壇上に説く所は言々熱誠、進り句々時弊を刺さざる無かりき、蓋し博士も憂國の志士なる歟。

捉らへ來れる十二博士、各一長一短有り、狹隘の紙面を借りて、僅に其一端を洩らしたるに過ぎざれば、言或は及ばざるもの多々あらんも、世に下落し行く博士の中に、學威猶四邊を壓する者の必ずしも絶無ならざると、時流の中に葬り去らるゝ悲哀の色に染めらるゝ連中とは、讀者自ら判じて以て見給へかし焉。(穴八幡老逸)

五 三府四十二縣知事

古狸、大森、京都府知事

鴨川の畔に十餘年辛抱したお陰で親任知事と云ふ絶大な名譽に預

つた彼は、治績大に上つたと云ふ譯でもなく、府民から多大な敬慕を受けて居るでもなく、さればと云つて大過なく今日に及んで居る所謂凡中の凡なるものである、若し夫れ其今日あるは只老獐の一語あるのみ。

鐵面皮、服部兵庫縣知事

不信任を議決されるとか、辭職するとか、近頃恐ろしく評判の悪い服部兵庫縣知事は、縣民が何程騒いでも矢張御輿を据て動かさない、然う恣にする中に、大隈内閣の御機嫌取政策で十五年勤續の御褒美として親任の待遇頂戴、何でも人間は圖々敷構へて居るに限るね。

久保田東京府知事の秘訣

政友系統で原敬の爲に忠勤を擢で居るかと思ふと、何時の間にか

官僚の御大浦の鼻息を覗つて三重縣から内務省に拔擢される。今度亦大隈内閣に宗像蒲燒内相の後釜で東京府知事になる、孰れに轉んでも只は起きぬ彼の唯一の手段をきけば笑つて曰「長い者には巻かれるだよ」嗚呼此處世術、後來官界に泳ぎ出さんとする程の秀才は、一度彼の門に伺候して其秘傳を授かつて來るべきである。

十で神童の大久保利武

維新の豪傑大久保甲東の嗣子にして幼より聰明夙に海外に學んで俊才の譽高かりし彼が監獄局長から鳥取大分と田舎廻りをして、商務局長となる迄はスバラシイ出世だと思つたが、近來どうやら遅々として進まず、後輩に先を越された傾きがあると、最負筋が力瘤を入れてゐるが、其よりも長兄牧野と違つた負けぬ氣のゴ本人は氣が氣である。

まいと云ふ人もある。然し側で思う程でなく、日本第二の都會を控へた大阪知事は、這麼ものだと收まり返つて居る處が、矢張後來恐るべき俊であるかね。

官學の代表、石原神奈川知事

街氣もなければ、輕薄な處もないが、融通の利かぬ何處か頑冥な處のある彼は、大學出身の代表者として最も好個なるものである。惡く云ふと青年時代の彼は、ちと常識に缺けては居ないかと思はれたが、今では面倒な横濱でどうにかお茶を濁して行く處を見ると、滿更馬鹿にも出來まいテ。龜の甲より年の功は争はれぬものである。

松井愛知縣知事の表裏

静岡縣に居た時分風紀を嚴重に取締ると云ふので藝者料理屋に多大の打撃を與へた彼は暮夜竊に屬僚を連れて求友亭などの奥座敷で馬鹿騒ぎをやつたものである。其だけ話せる處もある男だが其癖何處か官學臭味と警察風の抜けぬのは缺點である。今度は又日本第一の淫都金の鯨鉾城下に法學博士と云ドエライ看板を負つて赴任して居る。願はくは彼が天一よりも巧妙だと云ふ表裏兩面の使ひ分けが見たいものである。

凡庸笠井岡山縣知事

岡山出身の彼が圭角のある學者風の岡山氣質を抜けて不得要領の凡庸顔をしてノコくと鰻上りに經上つて官僚にも政黨にも睨まれずに來て居るのは智とや云はん愚とや云はんである。凡庸と云へば

凡庸だが寧ろ此方が罪がなくてよからう。

老獺寺田廣島縣知事

面従服非頗る狡猾なる廣島縣人を相手には彼が如き老獺なる者が最も適任である。産業は振はず、實業は振はず、只眠つて居て棚からボク餅でも落ちて來るのを待たうと云ふ人が、出稼ぎで溜めた金で半生を安樂に送りたいと云ふ人の多い土地だけに何をしても見榮えはせんが、日清戰爭以來の古巢だけに彼に取つては頗る住みよい土地であらう。

事務家谷口福岡縣知事

福岡縣知事は九州探題である。従つて代々の内閣は知縣の按配に

關して福岡は最も苦心するの地である。而して今次大隈内閣の成るや彼は南前政友會九州探題に代る重任を負はされたが果して彼が此任を全うするかどうかは疑問である。彼は只官學の畑に出來た茄子と云ふに過ぎず漬物や外の料理の妻にはなつても本膳に上せたらば何と見えるか危いものである。

坊ンチ、李家長崎縣知事

明治二十三年の法科出と云ふからもう大分の先輩であるが其割合に先輩ばえもない彼は何處か坊ンチ然たる無邪氣な處があるので到處可愛がられる相である。昔は文明の輸入港も今は落莫たる一寒村の感ある長崎で、呑氣に暮らして居る内には又芽の出る日もあらう折角自重し給へと親切なオヂさんが云つて居つた。

變物二幅對

浪人中警視廳に巡查を相手の擊劍の先生をやつて得々たりし西久保北海道長官と臺灣の蠻防總長をやつて生蕃征伐の陣頭に立つて蠻人と間違へられた大津岩手縣知事とは好個の一對である。兩者共に帝大出身の官學派だが、エセ學問で人を脅かす官學臭味は更になく蠻骨稜々意に満たざれば即ち去ると云ふ點は何でも斯でも嚙り付き主義の地方長官中の一異彩である。人間も變れば此邊迄變ると脱俗の趣があつて可い。

官學閥一束

苟も官吏たらん者は官學出ならざるべからず役人たらんものは

閥族の幫問たらざるべからずとは官界游泳虎の巻の巻頭に書いてある。今地方官に官學出身者が多くて一種の學閥なるものが出來てゐるからとて其が何も不思議でも何んでもないが、さりとは餘りになさけない知事様の多い事である。其等に短評なりと雖も一々筆を下すは物體なしと一山百文十把一束の格で失敬する。高知縣知事の土岐嘉平が三十四年の法科出の先づ此仲間の俊才とも云ふべきで、可もなく不可もなき長野縣知事力石雄一郎が三十三年の法科出身で、高知縣知事は沖繩縣の大味久五郎が三十二年出のチャキ、山梨縣知事の添田敬一郎と滋賀縣知事の池松時和とが三十一年の同期生である。其他二十九年の法科出には警察一點張の富山縣の濱田恒之助、徳島縣の秦豊助、山口縣の赤星典太、傲慢で有名な宮崎縣の有吉忠一などが居り、二十八年には山形の小田切宮城の俵などが居り、其以前の出身に

は三重縣の馬淵佐賀縣の若林岐阜縣の島田など數へ來れば四十三縣の三十餘縣は悉く其であるが、其等の多くは一言にして之を評し盡さんとすれば、凡庸取るに足らず吹けば飛ぶ連中であると云ふ外はない。

閥族系中錚々

地方長官が政黨に偏し、官僚に與すると云ふ事が悪い事は誰も知つた話であるが、世の中は然う孔子様の再來の様なことを云つて通るものではない、其處に行くくと官海をのらりくらりと泳いで廻り、甘いも酔いも噛み分けたオチさん達は百も承知二百も合點で、首の臺を繼いで置く事は官僚御座れ、政黨宜敷いと萬遍なくお世辭は蒔いて置くものゝ物は意地と行きが、りで、又其一方に遍し、政黨に味方するもあれば、

官僚の髯の塵を拂ふに汲々たるものもある。活辯の口上ぢやないが、只今顯はれまする知事の面々は此れなん官僚の土臺骨に喰ひ込で農商務大臣事實は無冠の内務大臣大浦兼武子爵の爲に手足となつて働く老功の武者共である。其等と云ふは埼玉の昌谷彰宮城の俵孫一郎、山口の赤星典太石川の熊谷喜一郎和歌山の鹿子木小五郎福岡の谷口豊五郎福井の佐藤孝三郎愛媛の深町練太郎等俊才鈍才愚才奸才多きが中にも其最も雄なるものを熊本の上川新潟の阪仲輔大分の黒金泰義の三名となすのである。

閩外の知事

官學官僚は地方長官の命の綱である。此綱の切れたものは早く凋落して長く知事の榮官を保つ事の出来ぬ今日知縣の功績は兎に角出

身を官學に持たず比較的官僚臭味にも近よらずして其地位を失はず、又撰拔されるが如きは以て賞讃の價は充分であると思ふ。群馬縣知事三宅源之助は多少官僚系に屬して居るにもせよ、二十二歳にして辯護士となり廿四歳にして高等文官の試験に登第した俊才である。札幌農學校の明治十五年出身者中には随分變物が多いが其中の一人として鹿兒島縣知事高岡直吉は地方官中の珍物である。又千葉縣の佐柳藤太茨城縣の岡田宇之助秋田縣の阪本三郎も其仲間である。但し阪本は大隈伯爵系中唯一の地方官であると云ふ事だから眞價はチト眉唾ものである。

サーベル出身の三知事

燒打と云へば直ちに警視廳を思ひ出す警視廳と云へば直ちに人切

騷動の張本人川上親晴を思ひ出さずには居れぬ。此川上前警視總監は今熊本縣知事であるが熊本と云ふ處は由來非常な官尊民卑の土地だから此知事公に對して何等の不服を唱へるものはない。其れから大正の政變で又々人切騷動のあつた際の張本人と目される小濱松次郎は今青森で其警察主義の行政をやつて物議の種を蒔いて居る。之に反して同じ警視廳出身の太田政弘は福島縣で大分評判がよい様だ。太田と云ふ人は東京に居る間は無能だとか要領が悪いとかで批難もあつた様だが兎角適才は適所に置ぬと眞價はわからぬものである。此外に警察一點張で素張らしく脅かす怖いオヂさんは大分の黒金泰義と云ふ名前からイカツイのがあるが兎角人間は怖い顔をして脅かされると陰で悪口の一つも言ひたくなるものぢやデ。悪い事は云はぬ、どうで先の長い事はあるまいから後生の悪い事は止めさへしや

い。(阿八山人)

六 官界長者の大頭小頭

國家の蠹毒

其身苟も官にあつて商魂を發揮し出入の商估等と相應じ隱約の間に利を征らば如何なる大穴を開くも容易に之を闡明することは出来まい。這次海軍問題の如きは即ち其適例で事實は遠く二三十年前より繰返されしものゝ如きも其暴露されしは僅に一部分に過ぎず。他の大部分は猶迷宮の裡に葬られ殆んど手を下すに地なきの觀がある。而して此の如きは獨り海軍といはず陸軍といはず其他の官省にも之あるべく唯不幸にして未だ暴露せざる迄だ。由來日本人の清廉

官界長者の大頭小頭

潔白は其誇とする所なるも、一たび其等官界の裏面を最も正直に打開せば、必ずや醜陋百出して聴くに堪へざるものあらん。且つ日本ほど官吏の威張れる邦はなく、かれ等の至誠奉公を看板とし、官人たるを名譽とするは、久しき間の習性なれども、今の如くんば官人の醜陋の却て大に市井の徒に過ぐるものがある。是れ畢竟國民の彼等を餘りに信賴し、餘りに監視を怠りしが爲めだ。彼等は國家の公僕にして吾人の傭人に過ぎず、故に斷へず之を監督鞭撻するは國民の任務にして又權利である。

抑國家の彼等に勳爵を與へて其名譽を表章し、又終身恩給に浴せしめて衣食の患なからしむるが如き、皆彼等の清廉にして公に盡くせとの意味ではないか。然るに彼等の表面のみ之を装ひ、裏面に醜事を働きて耻るを知らざるは、之を國家の蠱毒と云ふの外はない。

既に官人たる以上、名譽は其生命なれば、毫も利を念頭に印すべきでない。然るに其分に過ぐるの財力を作れるは、勿論或は居然たる富豪の班に立つものが少くない。是等は皆國民の疑惑を招く所以にして、彼等の不潔醜陋なるを誅するに足るのである。然らざれば何程勤儉節約を守つたとて、到底此の如くなれる譯のものでない。吾人は彼等の如何にして然りしかを遺憾なく研究するの餘閑を有せざれ共、所謂怪疑の焦點となれるものを少しく剔出して聊か煙の本を問はんと欲するのである。

井上と松方

政權の歸する所には財權も吸收され、官人として長と薩とが最も長く跋扈せるだけ、財豪も亦最も多い。例せば長の井上馨の私財は一千

幾百萬薩の松方正義が八百萬圓と稱せらるゝか如き單純なる官僚生活で到底産み得らるべきものでない。井上の姦獐傲岸なるや曾て薩の豪俠黒田清隆の怒に觸れ將に刀の錆とならんとしたことがある。黒田は彼を生して置いては何處迄も國を賊するものとしてゐた程である。蓋井上の財力は彼が維新桑滄後の不秩序時代に或は郷人藤田傳三郎と呼應し、或は益田孝等と提携して三井系に鐵鎖を結び其他苟も征利の望あるものには默契を訂し、隱約裡に巨利を割取するを忘れず。三井今日の暴富の如き彼の力が其半に居ると云はるゝ位にして、彼は三井の稻荷大明神格だ、故に何事か勃發するあれば必ず神前に指揮を乞ふことになつてゐる。

彼に崇高の美術眼あり、幽婉超逸の雅韻ありと云ふにあらざれ共、唯俗に對して珍絶奇絶容易に獲がたきを誇つて其鼻を蠢かすを無上

の樂とするの癖がある。然れは其内相時代の如き其權力を濫用して、高野比叡などに鎮護せらるゝ寶什を巧に捲上げ、或は彼に媚て何等かの特典に浴せんとする奸商等の四方より搬致せる古美術品を攫取し、今や其等骨董品のみにても時價四五百萬圓に達すと傳へらるゝ。其他彼が或者を誘掖庇護するや、一面よりすれば俠骨芳しく聞ゆるも、其事の漸く成ると共に租稅的誅求已むを知らずと云はるゝ例えば九州の炭山王貝嶋太助の如きは、彼が扶掖の賜に由り巨萬の富を成せるも、今猶年々五萬金を徵發すると傳へらるゝ。是等の虚實固より深く問ふに足らざるも、彼が官場第一の財豪たるには更により以上の辛辣饗餐の擧に出でしや知るべきのみだ。

松方正義は薩の出身にして中途長化せるものだ。茫洋の中に警束あり、淡蕩の半面に握込の薩州根性がある。故に其大藏大臣時代より

盛に溜込み長の井上に次ぐの實力を有してゐる。彼の貨殖に優勢なるが如く、子孫の繁殖力もまた頗る猛烈で、妻妾の出を總計すれば二十幾頭、孫以下を積算せば百幾十頭とならん。而して其等の兒孫をして相當の體面を保たしむるは容易の事にあらざるに、彼の老軀を提げて猶財と種の繁殖に努力倦むを知らざるは之を何とか云はむ。彼に逸話あり、往年何かの序に先帝陛下より卿の兒孫は幾何ありやと御下問ありしに、流石の彼も奉答に苦しみ、冷汗の双腋を露すのみであつたと。

山縣・大隈・山本・樺山・河村・山内・伊東・後藤

長の大御所たる山縣有朋は井上以上の奸譎で、井上の毛嫌をなし、無暗に肝癢玉を破裂せしむるが如く、單調ならず。克く忍び克く偽り表裏反覆端倪すべからざる所あり、其巨財の如何にして積れしや、猶其人

のごとく外界より之を捕捉するのは困難だ。大隈重信に至つては久しく政權に離れて野居し、忌憚なき批評家となり、却々他の同情を有するの反映として、彼の隱秘を注目するものなきも、彼とても慾は人一倍の發達をなし、隻脚百二十歳迄も長生して法螺を吹き續けんとする位だから、貨殖の術にも亦老練で、曾て大藏卿時代に其懷を肥すと共に、三菱には多大の恩恵を施せること猶井上の三井に於ける如であるが、彼の思ひ切つて吹き立て、且つ平常一萬の青年を教養するの點は、到底井上なんかの夢想だも及ばざる所で、其偉なるは此點だ。然れ共、由來吏僚生活の彼が、左様に巨資を作り得る理由がない。聞く所によれば、大藏卿時代は別物として、彼は妻姉三枝安富に旨を含めて、外國株を賣買して奇利を射ることを知り、曾て斯界の傑物たる雨敬をして、大隈の株通なるに驚倒せしめたと云ふ。此外先年彼の邸宅の祝融の爲

に滅却するや三菱が直に其新築寄附をしたといへるに視ても大隈對
 三菱關係の如何に深厚なるやが知らるゝではないか。
 薯蕷の巨頭たる山本樺山河村(故純義は何れも軍艦喰ひの名人とし
 て謳はれ巨財を作れりといへるが中に樺山河村は遠く日清戦争以前
 の事に屬し其内容を知るに由なきも山本に至つては現に海軍高官連
 の陸續法に問はるゝに徴しても彼が其醜魁たるは最早蔽ふ可からざ
 る處である。山本の股肱たる山内萬壽治も亦喰艦黨の一人たるは言
 新しく喋々する迄もなく彼が室蘭製鋼所の大株主たり郷里廣島にて
 は多額納税者の班に列する程の資力を擁するのみならず冥々裡に蓄
 積せるもの亦少なからず其實力は恰も權兵衛に匹敵すと稱せらるゝ。
 伊東巳代治は臺閣の夢を擲つ能はず政變毎に必ず暗中飛躍を試み
 るも此方には老驥伏櫪の嘆を免るゝ能はず然れ共株式界の驅引は玄

人以上に練達し爲に巨萬の資を積むに至つた相だが之を夫の官權を
 濫用して私囊を肥せるものに比すれば其勝ること萬々だが到底樞府
 に嘯傲する柄ではない。彼の如きは寧ろ潔よく衣冠を擲つて前垂黨
 に下り其天稟の機才を貨殖に傾注した方が却て目醒しく亦最も適當
 したであらう。先年彼が頻に株界に當り屋たるや吝坊の金堅羨
 しくて堪らざる竊に彼に聽いて那の株かを賣るか買ふかしたものだ。
 而して暫らくすると其株が思惑に反して大變動を來したので金堅
 蒼くなつて巳代公の下に驅込み大に不服を唱へたものゝ既に後の祭
 りで忽ち三四萬圓を失して了つた。時に巳代公曰く君等は駄目だ折
 角好い機會を教へてやつたのに慾張つて計り居るから這麼事になる
 んだと以て兩者の智と鈍とを知るべしである。
 後藤新平は虚勢を張り無暗に豪傑がるのが食色よりも嬉しいと來

てるので、其爲却て他の侮蔑嘲弄を招く事もあるが、時として此虚勢式
 が大に奏功したこともある。然り彼は天賚の虚榮家たり、故に之を發
 揮し之を満足せしめんが爲に要するものは幾多の乾兒と親分なるを
 以て彼は臺灣に民政長官時代より頻に乾兒を養ふと共に、兒玉、桂、寺内
 等の長閥の親分に密接したものだ。其等の關係を密にし其間に野望
 を逞しくするには、無盡の財力に待たねばならぬ。此に於て彼は臺灣
 滿洲に在任時代、唸る程に搔込んだものだ。而して之が下廻りとなり相
 棒となつたものは、皆政商即奸商一輩のみだ。看よ彼の門に朝夕相會
 する面々を、賀田金、後藤勝藏、其他荒井以下の徒指を屈するに暇あらず、
 而して一方には神戸の鈴木商會や三井の如き巨商にも連鎖あり、彼が
 一令の下に百萬やそこらの軍用金は立所に臻の概がある。
 山●本●内●閣●となり●原●敬●の●爲●に●彼●が●曾●て●布●ける●滿●洲●や●鐵●道●院●の●陣●地●は

殆んど根底より覆され、彼は這次の政變に乗じて寺内なり伊東なり
 を擔ぎ出し、己れ其參謀長として新内閣をと目論見、頻に現内閣破壊に
 腐心せるやに、聽くも天下は左様思ふ様に取れるものにあらず、且兩三
 年の浪人生活に屈托して、頃者益々煩悶を重ねてゐる様である。然る
 に現閣の運命も何時斷絶するやも知る可からざれば、焦らすして待た
 ば其運命の再興は近きにあるやも知れない。抑彼の隨時隨地に飛躍
 し得るは、一に親分兒分の楔子を有するのと其財力のお蔭であるから
 其虚榮心を益々満足せしめんと欲せば、宜しく益々此信條を堅固なら
 しむるにあり。然れ共達所より達觀すれば、彼の如きは是迄も唯運強
 き惡太郎の一人に過ぎなかつたのである。苟も天下に大を望まば、兒
 戲を捨て、大人たるの根本義より改宗するが可い。

田中・渡邊・寺内・西村・大木・三嶋・西郷

大山・井上・高橋

宮内省に立籠り帝室財産を巧に運用して巨財を作れるものに、曩に田中・光顯あり後に渡邊・千秋あり。何れも老獺奸猾にして容易に尾ツ毛を出さず。寺内・正毅は長閑の最後を飾れる巨頭に於て曾禰の後を襲ぎ朝鮮探題として年あり治績毫も見ざるべきなく先年餘りにサーベルの壓迫を加へて言論界の罵聲を買ひ今又増税の爲にヨボ・連の反抗を招き一方には内地の政戦にヤキモキし一日も疾く現内閣を打破して自家の天下たらしめんとし其懐刀の明石を破壊係として差遣せるが如き形迹あるもサテ世事は頑迷なる彼が想へる如にも參らず幾たびか朝鮮を擲つて長谷川の跡釜に据り徐に風雲を捉ふるやの説

ありしも是亦噂のみに止りて容易に足を韓海より洗ふ能はず。然りとて荏苒推移せば長閑は漸次其枝葉を萎られ根幹の獨立し難きを見て何とかして再び頹勢を盛返さんと厄鬼モ鬼せるの態は之を鏡面に見るが如しである。

寺内の頑傲剛愎は親分の山縣以上なるも姦獪の度は遠く山縣に及ばず寧ろ廉直とも云ふべき點がある故に其私産とても大をなすには至らざるべきも少くも百萬や二百萬そこらの者は積んであるであらう彼が一たび長閑の弔合戦をなすに先づ緊要とする所は彈丸の蓄積であるから京城の伏魔殿にて是位の準備は業に既に完了して居らう

西村・精一は寺内及山縣等の乾兒として久しく東京砲兵工廠提理たり醜聞屢々洩しも首の座に關係なく最後に世評の黙し難きに及んで

彼の退く頃には既に百萬以上の富豪となつてゐた。大木遠吉だの三島彌太郎の徒は何れも亡父の遺産にて二人は生れながら華族のミリオナーなるも他の痴呆兒と異なり之なくとも可なり腕の揮へる男である。然れ共遠吉の智は到底喬任の足下に及ぶ可くもあらず彌太郎に至つては其才識或は鬼總監の通庸を凌ぐやも知る可からざるも其膽勇は父の鼻糞を嘗むるに過ぎない。

西郷大山井上は皆薯の大なるもので其輪廓の不透明なることは相一致してゐる。就中從徳の父從道は圓轉滑脱の才を茫漠の中に包み機に臨んで突發人の肺腑を衝くの妙を有してゐた。大山の茫漠は西郷に更に走をかけ井上は其より少しく下らむか三人者共に得失の數には極めて明敏にして何時の間にか各々長者鑑に列せらるゝ程な産を作りしは流石に薩摩人である。

高橋是清の布袋然たるに似ず存外圭角多く且つ傲慢にして世評頗る悪い。而して性慾發揮も亦猛烈で折花攀柳の痴態今猶革むる能はざるが彼が一攫萬金の豪遊は之を繼續せしむるに足る不渴の黄金池あるが爲である。曾て彼は絃妓の箱擔まで零落したる事もあり其後の吏僚生活に左程の蓄積の出來得べき如なきも彼の資産は優に富者の域にありと云はるゝ而して彼の然りしは日露戦役後彼が國命を帯びて募債に出掛けし時の土産物だと傳へらるゝが此處が彼の布袋式福德を備ふる所以であらう。だが彼が藏相の運命を再び繰返さるゝ程國民もお芽出度なる能はざるべく凡鞍なる彼の今日あるは偏に天公の匙加減を過られたものらしい。

加藤 佐藤 齋藤 財部 松本 武田

偏狹なる加藤・高明が同志會の總統と仰がれたは、一に背後の三菱・國の後援を頼みとし、金・缺病に犯されし亡者等の推上げたるものらしく、適役として却て大浦兼武の勝れるを知るも、ソコは其れ背に腹の替へ難き所以である。然るに別段の兵糧手當も出ない前に、配下の有象無象は疾くも彼の傲慢偏狹に胸を悪くして脱黨沙汰もある。此の如き尻の光で身を立てしものを御大と崇め奉れる徒輩の意氣地なきに加ふるに斯る御大を以てする固より大活動の出來よう筈がない、同志會の今後も知るべしであるが、何黨の天下となるも彼が三菱・てふ後光を負へる以上は、其生命亦割合に永續するなるべく彼の米櫃は多・益々辨じ得らるゝであらう、佐藤進は故尙中博士の後勁たり、久しく順天堂・經營等より擧げ得たる利潤は、優に百萬を越ゆべく、齋藤・海相・財部・次官・松本・武田・兩中將の資産の如きは、世評囂々たる軍艦の餘澤と見

るべく、此他數百千の吏僚が、何が故に常識を以て判別に苦しむ程の産を作せるかを一々研究せば、必ず大に世耳を驚かし、米櫃の害蟲退治以上の効果あらむも、斯は一朝一夕の勞の能くし難き所にして、司法警察力も猶之を難しとするのであるから、吾人は唯世評に随つて之を直叙し聊か國民の警戒を促し、且つ今後其武器たる長耳・飛目を極端に役して根本的・大清潔法を施さんとするのである。

抑々吏僚の富者に殆んど皆暗影あるが如く、市井の長者には更により以上の暗影ある者がある。即ち三井・三菱・大倉・藤田以下幾多の富豪みな然らざるなく、而して國政の根本を作る三百代議士てふもの、大半は其等富豪と一種の醜縁を有せざるはない。故に這回の海醜問題の如く、剔決將に骨を刺さんとするに方り、刀尖漸く鈍るのである。左れば國民は皆自づから一國の議政者たり立法者たるの勇猛心を奮起

して、大清潔を行はねばならぬ。吾人の茲に官吏貨殖傳の一斑を説く
豈亦偶然ならんやである。

五 慾の競合

大岡文相と角眞の出齒競べ

曩に文部の奥殿深く嚴に鎮座ましまし大岡の義太夫朝臣も其の
昔血氣お盛んな頃は、一手は常に解語の花を折ることにのみ任じてゐ
たもので、今猶興來れば一枝や二枝は何時も掌中に弄するといふ元氣
である。扱もさる程に是は其昔沼間守一が東都の政客として幅を利
せし三十餘年前の事だ。彼は郷里山口より青雲を望んで東上し、紹介
を求めて沼間の玄關番に住み込んだ當時の同槽は角田眞平今の市區
改正課局長で俳名竹冷と稱し、矢鱈に風流がらせ給ふも、往年強姦事件

で久しく蟄息せし程の色道の剛のものであるで、兩者は意氣相投じ、斷
金の交りであつた。時恰も名家の仲働に二嬌がゐた、一を櫻とせば
一は躑躅位な二の町であつたのだ。何をいふにも水の出初の青年と
美人だ、磁石と鐵とを一所に置く如なもので、四個の血肉は忽ち吸引的
暗闘を始めた。其結果角田の勇や勝りけん、櫻は見事に其手に折られ
しも、躑躅は大岡の専有に歸した。サア如斯なつては堪らない、沼間の
家は春風の吹き續けで根太も揺がんで許りなるにぞ、主公の守一は青筋
立て、怒り出し、到頭四塊の色餓鬼を追つ拂つて了つたものだ。是れ
ぢや不可ないと大岡は躍鬼となりて勉強し、静岡縣で代言人の試験に
及第し、試験の東京よりも容易なりしたため、爾來星換り物移り彼は遂に
青雲の志を達して大臣のゴ前となり、當年の競争に勝鬨揚し、角田は、
市吏として彼の下風に立つ如になつた。人生の榮枯は實に摩訶不思

議なものだが、今や六十爺々の兩者をして皺面伸べて相對し、當年暗闘の状を語らしめば、臍の宿換疑ひなしだ。ハークシヨイ。

蒙古王の三千五百金

關羽然たる風丰と頓智即妙の辯舌で群盲を瞞着し一時東都に蒙古王の盛名を轟かしたる照山佐々木安五郎は、虎面羊質で裏心利の打算には極めて明敏で、何時も之が累をなして同人間に指彈されてゐる。對支同志會には淺からぬ因縁を有すると見え、或筋より三千五百圓とかの軍資を得、現内閣破壊の目的で日比谷俱樂部の一室に海軍革新會を設けた。處が政府では中西樞部其他同志會の面々を片ツ端から檢舉收檻を始したので、蒙古王の彼は忽ち軍資を抱いて其夜の中に關西さしてスタコラ、今や太田參次郎の遊説に参加して遠雷の唯ゴロゴロとお茶を濁してゐる、コ、等は最も克く彼の性行を發揮した者である。

犬養木堂の金の蔓

尾崎行雄をして憲政擁護の神今安にあると喝破せしめたる犬養木堂は、頃者其氣焰の擧がらざることも甚だしいが、消息通は犬養鎮火の因縁を語つていふ、彼は昨年野間伍造の手を経て川崎造船所より五萬圓を得た。又一の宮にある高々二三萬の別莊を權閥配下のものに八萬圓に賣り飛ばせりと。川崎造船所は薩系の金の生る木だ。此他種々の流言蜚語も強ち長閑の捏造とのみも思はれぬ節が多い。木堂も既に末路に近づいたのだらう。

田中舍身の一億萬圓

口を開けば熱辯火を吐くが如き舍身居士の田中弘之近來一切口を閉ぢて時事を悪罵するを聞かず。是は不思議だと探つて見ると、誰か知らんや和尚大山氣を起し、近き内に一億萬圓計り、懐に入るから、其時は君等に唸と響應るとの言ひ種だ。這は益々怪しいと其理由を質せば、ナ―ニネ―官没の寺社地を無料拂下といふ事で、今其運動中だよ。之が全部拂下げらるゝと、略一億と二千萬圓だ、巨きいものだらうがアーン。其處で時事問題で俺が痰呵を切らうものなら、政府の奴等が寺社地の方の門前拂を喰はずから、當分黙まりだよ。オイ外へ喋べツちや不可ないせ。是れだから喋り屋が喋らないと直に疑を受ゝるのである。

後藤新平の悪戯

新平男爵殊の外悪戯好で、前年遞相たりし時、偶子爵伊東巳代治と相會し大に吹合つた揚句、ドーダイ君、僕は近頃二萬圓計りの稀代の玉器を得た、之は妾宅に納つて置いたから所望ならば案内しても可いよと。何が偕飯より好きな斯道の巳代君、忽ち左様か其は是非一見したいと云ふので、一日竊に車を連ねて後藤と銘打ちたる家に導く、廳で一室を開くれば古今の書畫骨董星の如くに羅列され、就中一際目立てる玉器は眞に天下一品で、巳代君、太く感佩し見事々々の百萬陀羅を繰返した。時分は好しと新平先生、大分御意に召した様だな、一つ此家の主人を紹介しよう、と手を鳴らせば入り來れるは新平と最も昵魂な同姓の後藤勝藏であつたので、始めて其擔がれたのを知り、サテはと面膨らし、青筋も立てゝ見たが、モ―後の祭りであつた。

六 名物六十六頭顱

男爵澁澤榮一色の崇り

實業界に於ける一代の大紳士として持囃さるゝ澁澤男爵も、若し其半面の暗黒面を覗けば、イヤハヤ呆れ蛙の口アングリな事計だ。彼れ既に七十近い老域にありながら、猶帝劇の女優などに脂下り爛燈仄暗き金屏の裡に、律子浪子等の剛のものを對手として、グリンの三百も中てられ、骨も筋もあらばこそ、豆腐の如に溶けて了ふとは、流石に天保老爺の餘勇を誇るに足る。左れば彼が全盛時代の發展の凄じかりしことも想像せらるゝ、其當時の名残として、今猶彼の鼻毛を讀みつゝあるのが、誰あらう其北の方なるカネ子夫人だ。其前身は新橋で左棲を

取り引く手數多の中に此ゴ前に魅入られ、遂に見越の松のお園より進んで令夫人の玉輿に乗つたのである。既に主人が出齒黨の元老で、婿が藝者だ、這な家庭に成長せる子女に碌なものゝ飛出す筈がない。果せる哉、長子の篤二の二本棒は親父以上で、男爵なぞ何の物かは、好な那の兒とならば竹の柱茅の屋根、勘當結構、廢嫡萬歳を唱へて之も親父と龜鑑とし、藝者を山の神として、今頃は日々デ、デン、の太桿に濁聲張り上げて、近所合壁を驚かしてゐるとは、實に揃ひも揃つた親子である。

獨り怪しむべきは、這んな老爺を實業界の模範紳士として、矢鱈に擔ぎ廻る世人の氣が知れぬのである。若し英國などであつたら、早速紳士社會を放逐さるゝのだが、日本人の寛量なる亦た驚くに足るではないか。

前日銀總裁松尾臣善のペテン

高橋是清が日露戦役中米國に借金の使に行つて、百萬圓劬ねたと云ふが、是も高橋の前に日銀總裁であつた松尾臣善が時の首相桂だつたと思ふ、其旨を承て一日都下の各新聞記者を官邸に招いて饗應し、席上大に増師の確定せるやに仄かした。而して翌日の新聞を見ると、増師の事が筆を揃へて書き立てゝある。

是と同時に株式は騰貴を始めた、ソコで我策成れりとし、其より幾日かを経て又前日の連中を饗應して、増師中止の噂をすると、新聞は正直に之を載する、株式は忽ち暴落する、之を見て桂は固より松尾も財布の底をハタきて其買占をやつた。然るに増師は豫定の通り着々實行するゝことゝなつたので、株式は見るゝ内に又暴騰して、松尾は坐ながらにして數十萬の富を攫み、加之に男爵サマと成りすましたのである、是れだから世の中は、正直な面をしてる奴程危いものだ。

松方幸次郎の厄鬼勃鬼

侯爵松方正義も今や寄る年波には抗し得ず、伴杯に手を引かれ腰を推され、ヤツと自動車の厄介となる程な耄碌で、娑婆ッ氣猶失せず、政界に漕出すの噂もあつたが、その二十有餘の子女の中で、稍小憫口に出來てるのは幸次郎で、彼は親父の後光で川崎造船所の長となり、山本一派の醜類と呼應して、盛に軍艦を嚙つてゐたが、何がサテ昨年の豫算不成立で面喰ひ。今頃は全然紙鳶の絲が切れた如になつて飛び廻つてゐるが、若しも此儘で推行かんには、該造船所は顛覆の外はないので、海軍は何とか名目を誤魔化して其爲め五百萬圓を支出したと取沙汰せ

る位で、彼が厄鬼モ鬼は外の見る目も憐なもので、何とかして親父を引出し、今一度薯内閣の夢を見んとしたのも不思議でない譯だ。

前後宮相の破滅

大臣として最も嚴肅敬虔でなくてはならぬ其が最も不正陋穢を極めて宮中の威嚴を失墜せしめしは、實に憎みても餘りある事だ。前宮相の田中伯が不正の富は悉く皇室財産を嚙れる結果と傳へられ。松下軍次に擔がれ百數十萬圓を株式で煙となし随つて書畫骨董をも目白の邸宅をも賣り拂ひ、愛妾小林孝子へも三行り半の始末となりしは、皆自業自得とも天罰の呵責とも云はるゝ。お跡を承けし老獺無類の渡邊伯之は容易に尻は割るまいと思ひの外本願寺腐敗の飛沫を食ひ、到頭其地に居堪らずして辭職をした。這個な連中を九重雲深き邊

へ出入せしむるだに恐れ多きに、況して大臣としての重職を瀆さしめたる國民こそ飛んだ災難だが、彼等とても少しく道心あらば宜しく割腹して其罪を謝すべきではないか。

池田謙三の表裏

第百頭取の池田謙三は表面如何にも質素なる老爺にて、其綿服で馬鹿丁寧にアノネーを連發する處はドー見ても田舎村長の格だが。一たびX光線で透視すれば、鄙吝で無學で助平で、恰も雨に敲かれた牛糞の到底再目と視られる男でない。然れ共多くのものは彼が村長然たる點に打込んで、命に代る黄白をも彼に托してさへ置けば、毫頭間違ひなきものと、ドシ／＼持込んだ結果は、第百今日の隆盛を來たし、お蔭で彼も彼方にも此方にも振られ續けながら、出齒り廻ることの出來る様

になつたのば、一に江戸ッ子が惚れ易き性格の半面が、彼をして有野に入らしめたのである。だがモ一可い加減に成佛して、出齒料を貧民救助費にでも振替へたら什麼だ。

長閥三大將の出齒競べ

山縣幕下の陸軍側の四天王に寺内、ビリケンを筆頭とし、佐久間、長谷川、大島の大將連が控へてゐる。三角塔ちや角張り過ぎて女に受けが悪いので、彼は權勢、嚙付と財布を膨らますことの三昧に入つてゐる。佐久間と長谷川は赫顔の巨漢で、眞に大將としての器量は危いものだが、出齒の方では六十の坂を越えても中々頑健なもので、愛妾の外にも時々爪をかけて、雷の花を撈り、灰殻男の相場を狂はすことがある。大島は好男子で、温厚の質だけに、克く女に惚れられるが、何分吝なた

めに忽ち亦た振られて了ふ。だが強健な身體なだけに、老いて益々盛んに發展する。彼が先年滿洲にありし頃は、滿鐵七百哩の沿線到る處の旗亭に、丹次郎を氣取つて、艶聞の種を蒔いたものだ。既に總大將の山縣が妾本位で、今尙發展を怠らないのであるから、彼等が武者振の衰へざるは、毫も怪しむに足らないのである。元來長人は高杉、久阪、木戸等の先輩が、皆斯道の勇者で、就中高杉は花柳病と情死した位だから、彼等の精神意識は如何に耄碌するも、斯道の元氣の依然たるは、獅々の親類に猿を見る如な譯だんべい。

鈴木ハーゲマンの淫罰二百圓

先年ドクトル鈴木ハーゲマン、長森、藤吉郎、杯と共に、朝鮮の荒蕪地分取に出掛け、其幸先を祝するため、仁川一流の旗亭一山に、盛宴を張つた。

是れから數千町歩の地所を占領し、寶の山を築けると云ふので、氣焰萬丈、ハーゲマンの天ツ邊より吹き出す火氣は、櫻島の噴火以上で、席に列なりし大小妓に紙幣を敲きつけて、お山の大将を極め込んだ迄は無事であつた。

段々酔の廻るに連れて、俄に目尻を下げ始め、今しも雨しよばを舞ひ納めたる芳紀十六の雛妓玉菊を捉へ、忽ち衆人稠座の前をも忘れて花を散さんとしたので、玉菊は死物狂に遁げんとする、ハーゲマン何をと云ひながら羅生門の綱を真似て、片足を唸と引きたる機みに、何條堪らん、紅の血潮はサツト酒間に進つた。サー大變だ一同總立ちとなりて騒ぎ出す、ハーゲマンの酔も醒むる、摺つた揉んだの度々の詰り、マシ公二百圓の謝金を出して、あゝ濟まなかつた、酒の勢で大切の嫁入道具に龜裂を出來さして、是は今猶マン公の淫罰として仁川の一ツ

話となつて居る。

小澤武雄の偽善振

赤十字副社長の小澤武雄が、往年閥族の親玉に睨まれ、議場の演説が軍機漏洩といふ廉で陸軍を放逐されし頃は、天晴れ硬骨清廉の男のやうに見られてゐたが、其後慾張りて金儲けを始め、忽ち華族商賣のストップテンテンに敗衄して破産の境遇に陥り、其後巧に赤十字といふ慈善家の番頭に住み込み、什麼ゴ魔化したものか、今は十數萬の富を作り盛に慈善風を吹かしてゐる。

一體慈善の本家とも云はるゝ者が、汗水垂らした百姓の財布を絞つて數十萬圓の大伽藍を作り、一尺何圓の敷物を土足に懸て、威張り散すと云ふは何ちう態だ、其では慈善の主義にホコ盾するぢやないか。而

して這な風に發展するは一に彼等の何かを肥す爲だ。如斯いふ連中を永く風上に置く如では、日本は益々貧乏する許りだ卒く今より吾輩は筆を洗て、先づ小澤征伐でもやつて、其化の皮をヒン剝いて見よう。

後藤新平の浮ツ調子

蠅變じて龍となり山の薯化して鰻となるの例もあれば、何も後藤が奥州水澤の小僧から敷醫となり大臣となつたとて驚く譯でもないが、彼が向不見の人氣取と投機的計略が巧く圖に中りて、頓々頭を擡げ桂寺内等長閥の親玉に密接し、天晴一度は後藤内閣をもと頻に唇氣樓を描きしが、サテ那麼は問屋で卸して呉れず頼む桂は長逝する、長閥攻撃は劇しくなる、愚圖々々すれば脚下が危くなる、且つ黨首加藤は尻の穴が小さくて彼の蠻骨を容るゝ能はず、遂に後足にて砂を蹴つて同志

會を出で、好敵と參なれ拳の牙も是れからと、獨り猛虎負隅を氣取つては見たものゝ、一向彼を顧みるものなく、夢幻の間に内閣も二度迄顔觸を換へ、彼は益々世に忘れられんとするので、氣が揉めて堪らず、這回の大隈内閣には乾兒を使喚し己れ亦盛に暗中飛躍をやつたがお鉢の臭も廻つて來ず、爲に大に氣を腐らして鰻も薯も逆戻りの體とはお氣の毒な譯だ。

だが蠻爵柄に似ぬ色男で曾て名古屋醫學校時代にはオキヤーセ藝者にヤイノゝを極められ、今の細君よりは白羽の矢を立てられるなど、随分色運隆盛だつたが、後遞相の椅子に据り、管内巡視毎に到る處に艶種を蒔散した中に、一際目立ちて今猶小腹に皺を紀念さるゝは、先年陰陽連絡線完成の祝典に彼も出張に及び山口の小河源一恒松山口町長其他該地方有志は何れも大車輪で歡迎をやつた、其餘興として遞相

一行を湯田の温泉に祭り込み盛に馬鹿騒ぎをやつた。透相の本陣は松田屋で枕席に侍れるは、土地の名妓小ヒロの妹分なる小富とて芳紀十八の阿娜ものだ。萬歳の聲と酒氣肉香とに煽られて有頂天となる。透相下地は好きの御意應來と云ふので、早速情約成立してお安からぬ幕となれる夜も一時と思き四壁寂たる頃突然襖を蹴つて闖入し來れる阿修羅の如き男があつた。

是なん憲友新聞社長の棟居新屋とて、久しく小富の艶姿に憧憬れ、口説の數も重ねて見たが何時も肱鐵を喰へる矢先き、偶透相に手折られんとすとの噂に、起つても居ても我慢し切れず嚇と取り上せて、松田屋に飛込んで。襖の外に秘と内状を窺へるものありと知るや知らずや、内では雲雨漸く酣ならんとするに、新屋も最早是迄なりと有り合ふ物差押つ取り、突然兩者の枕を蹴つたので、忽ち大立廻りとなれるの

を、一同寄集つてヤツト取鎮めたが例の小河始め有志連も之には少なからず手を焼いた相だ。

是を以て見るも後藤は情の人にして、理性の傑物ならず、故に美形に心を動かすは勿論得意となれば無暗に威張り散し、失意となれば大回みに凹むと云ふ代物で、到底一國の棟梁となれる見込みはない。

望月右内の骨法

東京電燈が近き將來に電燈大合同をなし、外資輸入の下に濡粟の味をやらんと、一味徒黨を結束し枚を啣んで大飛躍中のご本尊は誰あらう。佐竹作太郎及望月右内等の幹部連だが、就中望月は總參謀長格で、險辣なる其手腕は何時東京市民を煙に捲いて、其野望を遂行するやも知れ、彼れ今年即ち一舉一動には大に眉唾の要がある。特に彼は政友會

一行を湯田の温泉に祭り込み、盛に馬鹿騒ぎをやつた。透相の本陣は松田屋で、枕席に侍れるは、土地の名妓小ヒロの妹。分なる小富とて芳紀十八の阿娜ものだ。萬歳の聲と酒気肉香とに煽られて有頂天となれる。透相下地は好きの御意。應來と云ふので、早速情約成立して、お安からぬ幕となれる夜も一時と思き、四壁寂たる頃、突然襖を蹴つて、闖入し來れる阿修羅の如き男があつた。

是なん憲友新聞社長の棟居新屋とて、久しく小富の艶姿に憧憬れ、口説の數も重ねて見たが、何時も肱鐵を喰へる矢先き、偶透相に手折られんとすとの噂に、起つても居ても我慢し切れず、嚇と取り上せて、松田屋に飛込んで。襖の外に秘と内状を窺へるものありと知るや、知らずや、内では雲雨漸く酣ならんとするに、新屋も最早是迄なりと有り合ふ物差押つ取り、突然兩者の枕を蹴つたので、忽ち大立廻りとなれるの

を、一同寄集つてヤツト取鎮めたが、例の小河始め有志連も之には少なからず手を焼いた相だ。

是を以て見るも後藤は情の人にして、理性の傑物ならず、故に美形に心を動かすは勿論得意となれば無暗に威張り散し、失意となれば大凹みに凹むと云ふ代物で、到底一國の棟梁となれる見込みはない。

望月右内の骨法

東京電燈が近き將來に電燈大合同をなし、外資輸入の下に濡粟の味をやらんと、一味徒黨を結束し、枚を啣んで大飛躍中のご本尊は誰あらう。佐竹作太郎及望月右内等の幹部連だが、就中望月は總參謀長格で、險辣なる其手腕は何時東京市民を煙に捲いて、其野望を遂行するやも知し、一、彼の一舉一動には大に眉唾の要がある。特に彼は政友會

の、牛で三多摩壯士を背後に控へ、場合に由つては何事をも爲しかねない處の地盤を有してゐる。

斯く拔目なく切廻し得る策士も、二本棒の下り加減は亦別物で、茲に彼が半面の一幕を落して見よう。金と威光で新柳二橋は云はずもがな、赤坂邊の大小藝者は大抵撫斬りをやつたが、是は月並で面白くなく、又不經濟なことだと承知はしても、燃ゆる情緒を抑へ切れず、セツセと通ふ某待合の女中に、繚綴もよし、舉止も悪くからぬ年増がゐた、小當にあたつて見ると、解りも早く、郎君のためなら妾が百年の命迄もと來たので、彼の鼻毛は見る／＼伸びること三千丈、遂に見越の松に黒板塀の妾宅に住はせ、掌中の珠宜しく可愛がつたは善かつたが、此愛妾に弟あり、其無職の故を以て愛妾のグリ／＼で、電燈會社員として採用され、ことゝなり、又此弟の依頼で、其友人をも社員として採用され。其結

果兩者は妾宅の姉の許へ屢々出入することゝなつたが、此弟の友人といふのが、灰殻の好男子で、姉なる權の方の思召に適ひて、其往訪毎に歡待を受けた。或日例の如く、兩者相携へて訪問し、酒杯狼藉の間に、亂痴戲騷をやつてゐる最中に、突然主人の右内に乗込まれた、此騷を見て、怒るまいことか、頂邊よりポツ／＼湯氣を立て、拳を固め、齒を喰ひしめ、大暴れに暴れ出した。此勢に一同のものは、蒼くなつて震ひ出し、二人は早々遁げ出して、了ひ、妾は空涙を零して平謝りに謝つたので、元來二本棒の右内先生、忽ちグニヤ／＼となり、二人の首は即座に敲き落して、會社を抛り出したが、此方は益々愛情細になり、劇しき電燈戰の骨休に、夜毎に通ふ深草の少將以上の熱度には、知る人みな驚倒せりとのことだ。

彼れ今年既に五十七の老爺で、此の如き猛勢を有し、奮闘休まない處

を見るとき、其前途猶多少の光明ありと謂ふべしだが、其人格の下卑至極の點をも證明して餘りあるではないか、

森村市左衛門の秘密

秘密といへば不思議なことである様だが神と呼ばれし彼も情海の波は凌ぎ切れなかつたと見え、日本橋のある處に秘密に圍へる愛人あり而も其愛の塊が三個もある。今や情操よりするも徳義よりするも一點の批難する所なき實業界の模範人物は、獨り彼あるのみと渴仰さるゝ反面に猶此のごときものがある。強ち其を兎や角云ふではないが、是で道樂息子の意見は、溢澤と一般でチト六づかしい。だが所謂日本大紳士の多くは是以上だから堪らないテ。

神田鐺藏の骨拔

神鐺といへば株式界の厄病神で今猶其仲間排斥されてるが金を集めることに於ては流石に名古屋種の抜目なく、今では株屋と銀行で數百萬圓を運轉し、旭日隆々の勢である。彼は財に出齒る如く、色にも大出齒で、今の妻を迎ふる以前には、何時も四五名の阿婆摺女に關係してゐたが。夫でも紳士たるには良家の令嬢を妻とせざれば、估券がつかぬと云ふので、數名の花嫁搜索係を置き、四方八方に漁り廻つて。漸との事で女子大學出身の今の妻を獲たので、新婚旅行の積りで歐洲巡禮をやり、赤毛布の耻を搔捨てにし、從來の出齒氣を一切この新妻に集注してゐるから、何れが先に腰を抜すか、臆蠅となるだらうかとの評判。

三浦觀樹の機才

長州出身で長閑の掬とならず元老の山縣をも屢々手古摺したる三浦梧樓老て益々盛んなものだ。是はチト舊聞だが客年小問使を孕まし、古稀を越えたる彼も少々閉口した之を聞込んだる某新聞記者奇貨措くべしと早々彼を訪ふて刺を通ずると、彼は卒然玄關に出で來り、「イヨ一珍らしいネー乃公も此頃小問使に兒を産して大恐悦だ、ドーダイ上つて祝つて呉れい」と記者の言はんと欲する所を先越されて、流石に千枚張りの顔も功を奏しようなく、其儘手を空しくして歸つた。この呼吸は彼が千軍萬馬の間より鍛鍊し來れる機外の妙諦とも云ふべしである。

大池忠藏の秘密殿

大池忠藏は釜山第一の長者で、裸一貫對州より飛込み來り、三四十一年間の奮闘で今日の地位を築いたものであるが、其も單純に爪上に火を點じて溜込んだのではない、一種の秘術猾策を巧に應用した者である。一例を挙げれば、彼は釜山海岸の琴平神社の下に、瀟洒たる別邸を有してゐるが、是が抑々秘密殿で、彼が何かの種になるの見込ある男女は、必ずコゝに祭込みて充分意中のものに飽かして、退ツ引ならぬ連座を作らねば、後日百倍の効果を收むる、其手段は恰も大倉喜八郎の向島の別墅を一攫千金の玉手箱として巧に應用するのと同じ筆法である。對州の船頭上り宿屋の主人公として鍛ひ來つた腕の牙は、先づ是位な藝當が落であらう。

安樂兼道の深幌

前警視總監の安樂兼道、官海の綱渡りも上手だが、色道にかけても中々の剛のもので、屢々浮名を新聞紙上に謳はるゝ、就中唯一つ彼の最も秘密に付してゐる愛妾がある、其は何でも千駄木に圍つてゐるとのことだ。先生の此處に通ふや、車の幌を深くして玄關横づけにして直に門を堅く閉ざして人目を避けてゐる相だが、既に三人の子女あり、鍾愛の熱度依然として百度以上との事だ。

福澤桃介の算盤

桃介は埼玉の百姓岩崎紀一の作で、慶應義塾で勉學中、福澤の娘に惚れられたが、因縁で其婿となり。爾來尻の光で洋行もする、會社員とも

なる、無暗矢鱈に刎ね廻つたが、とゞの詰り大敗北をなし非常の窮境に陥つたが、隼の如き彼は野望益々加はり、運命を株式相場に托した、固より素人の彼の困難は覺悟の上で、向不見に突進せしに、恰も鈴久の其の如くに頓々拍子に命中し、瞬く内に二三十萬圓を贏ち得た。其より猛氣一倍賣つた買つたの白兵戰に悉く奇功を奏して、一先づ足を株界より洗へる時には既に堂々たる百萬長者となり澄ました。是位な運勢と手腕ある程なれば、何を苦んで福澤の駙馬となれるやと怪しむものあるが、之が所謂桃介式の逆櫓張りとも云ふべき所で、敗れても遁場を存する梶原流の兵法だ、マツタ彼の身を立て得し最初の段取は皆尻の光の餘影である。彼れ時々調子に乗つて豪語する、本春の議場で、も官吏暴富の攻撃をやりかけたが、中途で引込ました所などは、一種の伏兵の爲に其鋒を鈍らされたのだ相だ。萬事が此筆法で先づ算盤を

ハジきて掛る工合では、到底義經流の九艘飛の離れ技は六づかしいネ。

久保田政周の男振

彼は六尺に垂々たる巨漢の風堂々たる割合に温順伶俐な質で、會て朽木に知事たり満鐵の理事たり再び知事として伊勢に赴き、累進して内務省土木局長より東京府知事に榮轉したる順風満帆の幸運兒だ。本年猶四十四の男盛りで其前途も頗る洋々たるものがある、而して前後二十年の吏僚生活中、格段の縮尻もなく寧ろ上長には覺え目度い方だ。游泳術の巧なだけに政友會にも長閑にも氣受あしからず曩に三重にありし頃などは、何時も大官連の送迎に最上を盡して、他年飛躍の素地を作るの傍、管下到處の旗亭に化性のもを漁り、天晴色男振りを示したが、其吝さには流石の伊勢乞食も閉口して、今猶門前に鹽

を蒔いて居る。宗像壇の浦の後を承けての東京府尹、思ひ切つたことも出来まいが、例の筆法で江戸ッ兒を茶化して行くだらう。

大谷嘉兵衛の棒讀

大谷といへば今では横濱の親分で、財産よりするも人望よりするも、マヅ堂々たるものだ。而して先生未だ類に無疵の君子振るも、彼の蓄財は玉石混殺式で随分怪しい分子も含まれてゐる。然れ共君子振るの癖があるので、若尾逸平や安田善次郎の如に、巨大な財は作り得ない處の損がある。彼れ苟も虚名の賣れ相な事には、ドシ／＼義捐も寄附も厭はぬが、陰德的なことには舌を出すのも頭を横に振る。だが世間では彼の虚名に釣られて、時々式辭だの演説だの、相談を持込と、彼は大恐悦で早速秘書役に命じて、奉書紙に淨書せしめ、其讀方を練習し

た後で壇上に現はれ如何にも勿體らしく之を讀み立つる。其種の出所を知らぬものは成程大谷は豪いものだと感服するが種を明かさるればウンザリせざるを得ない彼れ元茶問屋の小僧だ眼に一丁字もな

阪谷東京市長の附焼刃

前大藏大臣阪谷芳朗の東京市長たること既に四年だ尾崎行雄の後を承けたる彼の如何なる成績を擧げんかは當初均しく瞻望する所であつたが。サテ祭り上げて見ると矢張常盤會派の佐竹作太郎や望月右内等に製肘されてお平の長薯のヌラ〜として何の藝當もなく是で克くも藏相のお役が勤められたものだと疑はれる。イヤ疑ふ處ぢ

やない實際曩の大藏は逐々出されたのである當時田尻北雷は彼を坊ちやんと呼び井上侯は青二才と罵りし程で其お古を市長に頂戴したのだから江戸ッ兒の器量の下りしことも夥だしい。

左れ共春壽の殿様式に出來上つてただけに婦人の氣受は格別で今の妻君の如きは飛鳥山の別荘で其優姿に命までもと打込んだ位だ。コノ命迄もが大に彼の運命を助けて何時も爺父青淵の尻押で今日までお茶を濁して來た譯だ。が彼も財實には案外淡泊でなく聽く所によれば其妻の甥とかに當る男の經營せる鞆商會と氣脈を通じて同商會より月々二千圓宛の配當を受けつゝありと傳へらるゝ該商會は東電線路の用材被服食料等を納入する一種の獨占權を有してゐるものだ彼元金の生る木の岡山育ちだけに此道にかけては何處迄も抜目がないだが今後再び大臣となるはチト六つかしいものだ。

江間俊一の壇の浦

東京市會議長の彼は頗る奇怪な性根を有してゐるが兎も角漢洋一通りの學問の素養もあり舊式ながら法律上の意見も立つ壯士上りとして上玉の方だらう。曾て故星亨を崇拜し利光鶴松森久保作藏井上敬次郎及彼を併せて星門四天王の稱ありしだけに今猶腕力主義で時々疝癪玉を破裂さして鐵拳を振ふこともある。森久保や利光程な陰險惡辣はないが暴虎憑河の勇は兩者以上である。

コノ亂暴ものが帝都の市會議長とは物騒千萬な譯だが彼が背後の常盤會の勢力は猶彼をして翺翺せしむるの餘地を存してゐる様なものゝ今や市民も彼等の暴壓に堪はず曩日の市會議員選舉には反抗の勢凄しく遂に反對黨の天下となり彼れの運命も最早壇の浦の幕となつた。

由來彼は多藝な天稟を有し書畫詩文を愛し鐵筆を善くし又歌舞吹彈の技にも通じ近來は五賃將軍の綽名ある中村春吉に傾倒し阿吽の呼吸を以て婆々や大小妓の目を廻さして悦に入つてゐる。這麼な風だから何時もビイ〜風車で曩中錢なしだ。

中野武營の助倍

實業界の老頭兒として濫澤榮一といへば其に並いで擔ぎ出さるゝは必ず中野武營である。彼に濫澤の如き猫を被ぶつた射利心あらば均しく今頃は百萬長者だが元來名利に恬淡な質で曩に株式取引所理事長を二十年も勤めながら未だ曾て疾しい噂の立たなかつたのにも其一斑を證せらるゝではないか。然れ共那麼に長い間かゝつて

築き上げた根城をヨイ／＼
加減は亦格別だ。 腮蠅の郷誠之助に乗つ取られし不器量さ

頃者大小山師連が何々銀行相談役だの何々會社取締役など、矢鱈にお興として擔ぎ廻るが擔がる、だけ彼の衆盲を眩するの惰力あり、擔ぐだけ山師輩の無力幽靈的なることも裏書さる、譯だ。然れ共幽靈銀行や會社がソ一産れて來ては、知らぬものこそ大迷惑否社會を賊するものだから、彼も最早諦めて商業會議所以外の事には一切關係を絶つたが宜い、助倍根性を何時迄も出すと、入棺するも成佛は出來ないよ。

安田善三郎の恂々

媒酌役として海軍の松本和に類した男に、法學博士の穂積陳重があ

る。善三郎が帝大にゐた頃秀才だと云ふので、銀行王に勸めて其駙馬としたのだ。流石に陳重の眼に適ひしだけ妻のゴ機嫌も殊の外麗はしく、又頃者長者議員として上院に入つたのだ。岳翁も自慢の百萬陀羅を列べてゐる。だが、木石ならぬ彼とて二六時中鼻の顔ばかり見てゐては欠伸も出るので、時々新橋方面へ出齒るも、駙馬の悲しさ深更迄とは行かぬ、大概九時か十時で切上ぐる、若しも遅刻でも仕様ものなら、其れこそ一大事だ、胸倉二本角の呐喊は勿論、遂には三下り半の雪隠詰になるやも知れないと云ふので、何時もながら噴火口上を行くが如くに恂々ものだ。

大竹貫一の後家規

大竹は元越後の豪農で四五十萬圓の産を有してゐたのだが、政治騒

で悉皆棒に振つて了ひ、知事にも大臣にもありつけず、平代議士で鼻となつた。順よく行けば、鉛天神の杉田位には行けたのだが、其立場が悪かつた爲に、末路振はず、今は巢鴨の金持後家西村マサエの許に丹次郎を極め込んで、その噂だが、若し事實とすれば、貫一先生中々隅に置ぬ色男でゴ座る。

下條正雄の巨富

書畫鑑定の大作家として、貴顯富豪の間に出入し、眞筆を贋と唱へ、贋物を眞と云ひ、其間に口密錢を劬ぬる買占をやる、彼や是やで、百萬圓以上の産を作つたとの評判だが、是では骨董商も跳足で遁げねばならぬ。彼は米澤の貧乏士族で、夙に海軍に入り、主計大監で、算盤役で、佐世保だの吳だのを、經巡りて、散々懐を温め、多少の鑑定眼あると共に、自畫自

讀の丹青の道にも、堪能なので、大に重寶がられ、且つ天性、幫間術に、巧妙な爲に、勅選議員に成り、澄し、或方面に一種の勢力を有し、市井の骨董屋をして、彼の前に三拜九拜せしめる處の技量は、計吏上りとして、當今無類の珍だが、其品位人格は零の又零だ。

故山座圓次郎の鍍金

本評は山座の死前に試みたものだが、彼も對支外交に記憶すべき人物だから、特に収録しておく。

評判悪しき伊集院彦吉の後を承けて支那公使となりし山座圓次郎の近狀は、什麼だ。吾人は從來の渠が豪傑振りに打込んで、驚天動地とは行くまじきも、多少快心の措置をなすならむと、刮目して、其後の消息を待ちしに、誰か知らむ、某々油鏡は某國に、某々鐵路は某國に、某國財權

は某國と傳ふるものもくも悉く列強奪略の聲ならざるなく其總に贏ち得たるは滿蒙不毛の地に於ける不急の鐵路敷設權に過ぎず所謂油揚は悉く他の鳥鳶に浚はれ渠が赴任の際に北京に晝寢に行くに云へりし如く全然晝寢せしと同一の結果となり其豪傑の鍍金は頓に剝ぎ去られし如き心地がする。

今の時誰が行つても支那相手では左様のバキ行くものでないから強ち渠に多を望んだのが間違だ況や渠は豪傑の面を被りし一才狡で元玄洋社の浪人畑に育ち廳て官僚化し一時小村の信賴を得ポーツマウスに隨行し見事にウキツテに背負投を喰はされ久しく英國に加藤大使の下に參事官たりしも加藤とは反が合はず態々ゴ持參の樽酒で悶々を遣り歸來支那の南北を巡歴し獨り善がりの支那通となり多大の抱負を以て北京に乘込み其片腕として矢張偽豪傑の窪田文三を

天津に据ゑ參事官としてヤンキー型の水野幸吉を擧げしに。型の異なる兩者の長く折合ふ筈なく今は水野と反目の地に立ち片腕たらねばならぬ窪田も空威張だけで一向役に立たず有繋の豪傑先生も内外より苦しめられ頃者頻に辭意を洩しつゝありと傳へらるゝが是は實際らしい。支那の料理方は什麼して一夜漬の通人格や天麩羅豪傑など遣り通せるものでない。見よ往年の革命騒に渠が師事する頭山満や犬養なども上海三界迄繰出して手の下し様なく空しく逆戻りをやつた位だ。

元來支那は摺ッ枯しの大家の後家が五六の情夫を繰る如なもので矢張敵手が金持で親切で口説の巧いのに餘計に秋波も送れば心も許すのと同様な譯だ。之に反して壯士上りの愛嬌のない醜男には何か他に利する時のみはニコボンの一つも呉れるかも知れないが什麼し

て他の三拍子お揃の色男に敵しやう筈がない。だからコノ後家操縦係としては、一代に傑出せる人物を簡抜して差向くるの外はない、扱如斯なると見渡す限りチャコヤ鱒の群ばかりで、鯨は愚一尾の鯛をも見當らない我が外交界だ、是では寒心せざるを得ないぢやないか。

(因に云ふ山座の代りに日置が出たが、別に代り樂もないぢやないか。)

伊藤大八の猫糞

前山本内閣で政友會が其兵站部として分捕れるもの、中、滿鐵と東拓は主なるものだ。名義だけ東拓總裁に吉原あるも、彼は肺患末後の難症を有し、且つ純然たるお役人で拓殖上の實務と實權は副總裁の野田の掌中にある。之と同じく滿鐵總裁の野村は學者肌の技術家にて、實權は大八の方寸に收められてゐる。

大八は信州の山猿で郷里ではフトイヤツと稱せられるだけに、彼が

今日迄の徑路には随分フトイ遣り口が多く、先年桂が新政黨組織の際の如きは、陰に政友誘拐費として何程か猫糞せるやに疑はれ、同黨員の非難の聲が高かつた。一度林遞相の下に鐵道局長たり引續いて鐵道會議員たり、自から鐵道通を以て任ずるも、決して通がる程の通ではない。學問としては會て中江兆民の私塾にゐたと云ふので、佛語を多少解するも其解し方は到庭解語の花を折るの呼吸を解するの十分の一にも行かぬ。彼が赤坂の藝妓屋林屋を乗つ取り、其養女の情夫として凸凹界の絲を引き、一面には政友會を嚙り、今では四五萬圓の産を作り、金力と古顔を看板として政友中幹部の牛耳を執つてゐる。

抑々滿鐵は前後九年に亘り滿洲の伏魔殿と稱せられ、上は總裁より下は二三十圓の腰辨に至る迄泥棒の競争をやつたものだ。殊に後藤巒爵の如きは、交迭前迄は唯一の財源として屢々づ用金を命じ、中村國

澤以下の乾兒連は重大問題は皆彼の指揮を仰ぐと云ふ風であつた。這麼な風であつたから理事などで三十萬や四十萬の金を作らぬものなく、且つ平常頗る傲奢を極め一夕千金を抛つて馬鹿騷をやるので、各青樓では滿鐵重役を大黒天の如く崇めてゐた。滿鐵從來の不埒を、各々指摘すれば僕を換ゆるも不可能である。單懷を肥すには是程調法な處はあるまいと思はるゝ。

斯る生金郷に元來金に目のない大八の乗込める事として、黨費稼を看板として熾に自家の財囊を膨ますであらう。現に滿鐵支社建築地として東京丸の内にある土地を、時價三分の一位に賣飛ばし、竊に二三十萬圓をセシメントせるを株主等に感づかれて沙汰止みとなりしが、先づ其手始が是であるから、其任期の四ケ年は随分短かゝらざることゝて握込の機會も簇出すべく、財囊の膨脹は那れ迄ゆくか大に内外の

監視を要する譯だ。(大八も到頭鐵首されたが、矢張舊業の政黨屋に限る。)

橋口勇馬の南洲型

今回の陸軍大異動により大佐より少將に進めるもの八人あり、八様の色彩を放つてゐる。就中最も武人らしきものに橋口勇馬がある。彼は戊辰の際伏見の寺田屋にて横死せる橋口某の甥で、膽勇は充分であるが、智略と機才に乏しい。然れ共凡鞍將官の山程ある中で、彼が大西郷式の巨眼を斜き出し、不言の雄辯無爲の爲を發揮し、幾多灰殻將校を畏服包容する所は一奇觀である。是等木強漢も女にかけては平等無差別の博愛家で、一日も女なくては我慢が出来ず去りとして時々結伽跣座で三昧に入る事もある。日露戰役中喇嘛僧に份し深く漠北の野に入りて敵狀を探り、又軍政官として鐵嶺にゐたが、此村長役は全然零で

あつた。彼の如きは、詔向の戦將で、今や旭川に一個旅團の主將として北門の鎮護を申付つた當世には一寸珍らしい型である。

金子堅太郎

故伊藤博文の全盛時代には伊東末松井上(毅)と相駢んで四天王の名を成したものだ。然れ共伊藤の勢力衰へ次で漠北に斃れてより彼の聲名は漸次社會より遠ざかり、今や其存在を問ふものだもなき迄になつた。一時阿附的や付焼刃で世に立つものゝ運命は實に泡沫の如きもので、彼は正に泡沫連の代表者と云つても宜い。

由來福岡藩の秀才で、米國に遊學し慥かエール大學出の法博で、今では其名譽教授だと思ふ。往年伊藤の憲法を草するや、彼の法學上の知識の最も多くが提供され、他の三天王も一步を譲つてゐた。斯の如く

頭能も透明で學識も豊富だが、如何せん彼の膽は豆の如く、彼の智は凡て物質的で到底形而上に超脱する事は出来ぬのである。故に常に何物にか贅縁し、何物をか光らかさゝれば世に立つ事の出来ぬ木偶の棒である。是だから品性も下劣で、又思ひ切つた英斷などの出来やう筈がない。彼の一たび勢ひを失するや木より墜ちたる猿の如く何事をもなす能はず、其郷黨に於てさえ亦た嘲聲罵聲の裡に葬られるのも當然である。だが世の中の大部分は皆此類の徒であるから實になさげなくなるぢやないか。

山崎嘉太郎

帝國堂てふ賣藥屋の親爺だ、紳士の舞臺に擔ぎ上げらるゝ程な代物ではないが、賣藥の廣告で帝國堂の名は随分久しく響いてゐるから、一

一寸皮剝いておく譯である。彼は信州の山猿で眼に一丁字もない偶々其縁戚の大木口哲が賣藥界に成功せるのを頼つて上京し、永年の奉公で其呼吸を覚え遂に大木の尻押で帝國堂を創め、夫婦共稼ぎの大車輪の活動をやり謂ゆる藥九層倍の儲方であつた。今日の位置を築いたのだ。由來可い加減な原料を香氣や味で誤魔化し大々的の法螺廣告で客を煽り、何でも握り込みさへすれば吾事足れりと云ふのが彼等の常套で、随分惡戦をする、其一方には蹉躓もする。故に彼の身代もプラスとマイナスと差引けば、残す處は何程もあるまい。其でも金の茶釜の三も四も轉がつてる如に吹聴するのが彼の秘訣である。然し這麼な駄詮索は何でも宜いとして、此無教育な小僧上りの法螺で吹き固めた如な男が、東都の商業會議所議員として、獨り善がり幅を利してゐるなどは、聊か江戸ッ兒の體面には關しはしないか。

林 權 助

會津武士の畠に育ち、ゾム人形の内田康哉や色男の林龜、サテハ三井の大黒柱、早川等と同期の赤門出身で、何れも順風で渡つて來たものだ。彼の伊國大使たる寧ろ閑に苦しむ位だらう。從來彼の最も光彩を放てるは、韓國公使時代で、彼の以前既に十四名の公使交任を見、何れも瑕瑾百出であつた中に、彼の割合に好成績を挙げしは、中外の認むる所である。次で北京公使となつたが、是亦頗る無難に通過し、遂に伊國大使に陞進した。

彼れ由來圭角百出、ほうくの頭の如き質にて能く衝突するも、根氣よく屁理窟を並べて決して屈せない。且つ極めて沈黙で無愛嬌だから、辭令本位の外交官としては固より適者ではないが、當今の俳優擬ひ

の骨なし外交官などには優ること數等である。彼は會津出身で父を權大夫と云ひ戊辰の役には長槍を揮つて會津城より突出し群がる敵と鏖戦したといふ程な勇者で、彼は最も克く父に背て又會津型の代表者とも云ふべきであるから、其適所を求めば最高の軍人だつたらう。

新渡戸稻造

一時非常な評判男で一高の學生等は大に傾倒してゐたが漸次彼の箔が剝げ地金の露出さるゝに至り彼は遂に一校校長を辭するの止むなきに至つたのである。肩書としては農學と法學の博士を有するも彼の農業知識は遠く片田舎の百姓爺に及ばず法學とても時代後れて淺薄で到底語るに足らず唯常識には頗る發達してゐるので能く青年の心を引付けるの術を解し時の權豪に阿附するの道を知る彼の今日

迄の地位を築いて來たのは全く其が爲である。妻は米人で先方より結婚を申込まれたと吹聴さるゝ程の艶福家の方だが。ゴ當人中々一人で納まる譯に行かず時々若いのに手を出しては飛んだ敗亡をする事がある。

根津嘉一郎

甲州系の財豪だ、其財力に於ては臆て若尾に亞ぐの勢あり。小野金六、佐竹作太郎、小池國三、福島浪三等の甲州勢と相倚り相擁して帝都の財界に封豕長蛇の威を示してゐる。れ當初寒學究に身を起し、次で政論に興味を生じ、三寸の熱舌と三尺大のステッキを提げて、甲村の演説乙市の選舉運動に狂奔したが、餘り活動の効果も見えない結局相當の財力を作らねば現代には何事をも成す能はざるを自覺し、敢然として

身を株式界に投じ、一沈一浮幾多の艱難を嘗め可なり、財を作ると共に政界に於ても陣笠の一を獲たが、モ一如斯なると政治よりも財界の方が趣味が多く、代議士は單に肩書を作るのと何かの便利に供するに止り、益々作富の上、力瘤を入れ、遂に數百萬の成金となつたのである。然るに彼は天稟野鄙狡猾で、目的を達する爲には如何なる手段をも遂行する。故に代議士としても國民黨にあるの不利なるを知らば、忽ち同志會に走り、其位置を他の射利の上、に運用せん事にのみ肝膽を碎くのみで、金さへ出来れば、自黨が什麼ならうが、朋友が何と云はうが、更に頓着をしない、是が根津の今日ある所以である。彼の批評は随分澤山に世に吹聴されてるから、茲には單に其略筋だけを竝べて、ゴ免を蒙る事にする。

大石正巳

不得要領の老武者で、久く野狐禪に隠れて呵呷の呼吸を凝した甲斐見えて。近來は全く出齒沙汰も止んだ如だ、ナニ左様な事があるものか、彼が四谷の宅にも中野の別荘にも、立派な齧のある尼僧が枕席に侍つてるぢやないか、其上の發展は彼の命に關するから、彼とて其程三味には入れまいよ。這次の大隈内閣には屹度那の椅子かを占むるに違ひない、否大車輪の運動をやるだらうと、世は皆同じ様な豫測をしてゐたが、之に反して彼は一向平氣で唯其黨の結束と内閣の把持に努力を惜しまぬと云ふので、全く從來の入道とは趣を異にした如である。然れ共彼れ由來後藤象次郎を小型にした男で、野心から野心に逐はれて一生を棒に振るの傾あり。現内閣の運命も凡そ何時迄續くか

位は既に成竹あるべく、近き將來の政戦には如何すべきか等多年の經驗は、彼にその行藏の秘を語るならむ。故に彼も槿花一朝の大臣の冠を望まず、静に結伽して更に大なる飛躍時機を待つものであらう。兎もあれ今の同志會中で、器格の何となく大きいのは此入道で、年々彼が議會での外交質問演説にも、徹は生えたが、猶名物の一たるを失はない。だが何と云ても、後藤象次郎張で權變限りない方だから、決して油斷は出来ない。他の政客の多くは一たび當がひ扶持を離るゝと、案外悲惨なものだが、彼の二邸二妾を有し、泰然自若として薪水の沙汰を知らざるものゝ如きは、誰か知らむ當初より三菱王國のあるありて、彼の存命中は遺憾なく兵糧方の役目を勤めるからだ相だ。若夫れ枝葉に渡りて、入道の揚足をとれば、随分舊惡もあるが、一先づ此邊で鳧にしよう。

箕浦勝人

舊改進黨より國民黨の中堅として著名な男だが、一たび桂の傘下に走つて官僚系に化せるより、兎角の評判を取つた。然れ共元來好々爺にて、別段操觚の鬼才あるにあらざるも、常に操觚界の元老として推され、又言論の聽くに足るものなきも、那の黨にあつても總務株として祭り上げらるゝ所を見ると、彼は餘程の徳望家とせねばならぬ。人は徳にあり、學問や辯説は畢竟辨慶が七ツ道具位なもので、道具其ものよりも辨慶が確りしてゐなくては、道具も役に立たぬ事になる。

然らば勝人には七ツ道具を使ふ技倆はないが、當人は餘程確りものか什麼かといふに、之を赤裸にし之を解剖するも、依然たる勝人で何の變りもない。而して如何にも奥床しく蘊蓄あるが如く見られ、大人

物の如くに買被むらるゝは、一に彼が沈黙にして茫々乎たり悠揚乎たるの徳である。何人も出洒張れば揚足を取られ多辯なれば他の感情を害し易い。然るに彼は殆んど一切の事を喋らず、謹んで他の言を聴き如何にも敬服したらしき態度を示すので、皆彼の雅量と聰明とを稱し、何時の間にもやら得がたき一種の人物とせられたのだ。正直に言へば彼は獨活の大木、無能の長者に過ぎないのである。然るを彼の不相應に買被られしは、全く飛上りものと浮ツ調子のものゝ多き反映と言はねばならぬ、……沈黙の功德亦た大なる哉だ。

増田義一

越後出身だけに、賣名と金儲は實に巧なものだ。彼が十七年間實業之日本に據り熾に成功談を煽つて意志薄弱の青年をして、益々虚榮妄

想狂たらしめ。一方には頻りに幫間術を弄して實業界の先輩に媚び其名を利用して讀者を釣り、一時實業之日本の發行部數拾萬に上つたこともある、お蔭で無一物の彼も今や百萬近くの財を積み、代議士にもなれば洋行をもすると云ふ大發展だ。彼が曾て早稻田を出て月給貳拾圓前後で、實業之日本の前持主たる光永の許に傭はれたる時の慘澹たる光景を回想せば、坐に今昔の感に耐えぬであらう。

兎も角彼の幫間術に長けたるは、其天稟で之加に精力主義で固められた男だから、那の方面に向つても成功の素質を有してゐる。固より男子の眞骨頭から云へば七里ケツバイ鍬一文の値もないが、當世の所謂世渡の名人としては餘り類がない殊に新聞雑誌の經營程六づかしなものはない、見よ一年の内何程興廢があるか解らないが、之で成功せりといふものは寥々晨星も霄ならぬ位だ。然るに彼は其機關の實業

之日本を主として、婦人世界だの日本少年少女だの、實業講習録だの種々な定期刊行物を出し、其發行部數の少きも五六萬多きは二十萬を出し、毎月の純益五六千圓を算すとは、實に偉なる哉で、恐らくは雑誌界空前の大成功と云つて宜からう。而して如斯に大成せる主因は云ふ迄もなく彼の精力主義と幫間術に加ふるに、人情の弱點と流行の中樞を捉ふることの敏なるが爲である。

越後出身者で出版業で大成せるものに大橋新太郎の博文館あり、彼の大々先輩だが之は既に守成一方に傾き彼の如き駁々發展の勢なく。將來大橋の株を奪つて出版界に雄飛せんとするものは、彼の外にあらず、文明の機能たる斯業をも壟斷せんとは恐れ入つた譯だ。然れ共世は既に成功熱に厭き、彼の屬せる國民黨も四途路モドロの光景だから、左様何時も順風滿帆とは行くまいよ。(彼の義理立てた脱獄、蓋大眼伯)

野依秀一

五尺に足らぬ小僧だが、才氣煥發、精力無類の方で、監獄より出づると共に大活動を始め、忽ち三萬圓位も掻集め、之を全國の新聞廣告に蒔散らし、其主宰せる實業之世界の出獄記念號は、忽ち再版の盛を觀、同業の實業の日本を凌駕せんとして來た。彼の行方は萬事此調子で、大に青年の血をそゝる處に快味がある。増田義一は幫間一天張だが、野依は幫間に加ふるに威嚇の度胸がある、是れ彼の今日ある所以で、雑誌の内容を相較べて見ると、兩者の性格が如何にも克く映出してゐる。抑世間の或一面では野依の事を頻に攻撃するが、達觀すれば世間で彼に乗せらるゝ大缺陷を作つてゐるからのことで、若し惡徳を以て云

へば三井三菱其の他の富豪は勿論陸海軍なり宮内省の前大官連には、
 夥しき強竊盜にも類する無慚の徒がゐるではないか。是等の徒が
 偶々小銃の狙撃にも似たる彼の攻撃に恟々するのは自ら大なる弱點
 を有するからだ。彼の或半面は固より零だが其不善者に對つて痛罵
 猛撃を加へる點は慥に社會の清涼劑だ之を増田義一の幫間一天張で
 推し通すに比すれば寧ろ快心の點もあるではないか。

仙石貢

白石直治と共に何れも土州出の工學博士だ工學の方では可なり頭
 能も出來てるだらうが政界には兎や角いふ程な値のない男だ。仙石
 の全盛は九鐵の社長時代で、其後三菱の尻押で代議士に出たが一陣笠
 程の働さも出來なかつた。當時彼も我も屹度一方の首領株位な活動

をやるならんと期待せしに。其は越禪となり其儘久しく不遇の境に
 沈淪してゐたものだ。然るに這次三菱系の代表者たる加藤が大隈内
 閣の副總理となるや、加藤は曩に鐵國問題の爲に三菱系の主張を固持
 して外相の地を退いた位で、均しく三菱の手先たる彼とは極めて深き
 關係あるため、頓に鐵道院總裁に簡拔された譯だ。今の鐵道院には格
 別な問題もなく、左程の手腕を要する事もないから、什麼にかお茶をも
 濁して行け様が彼の運命も先づコ、ラで止まりだらう。

團琢磨

古い工學博士でお郷は福岡だ、同郷出身の金堅とは克く似た型だが
 久しく三井の重役でゐただけ態度も圓滿で常識も發達し、寧ろ添田壽
 一に彷彿たる點もある。今では益田孝に亞ぐ三井の大黒柱で、其富二

三百萬圓に上り、輪奐たる宏邸に傲臥し、王侯の贅を極めてゐる。だが彼は慳吝、陋劣な質で、其巨資を擁して贅を盡くすを知るも、未だ之を以て濟世の業を起し、有爲の後生を奨励するを知らず。單三井王國の元老として、勿體振り、王國の粟を貪つて自家の富を築き、物質界に傲視するを無上の快樂としてゐる處を見ると、眞に屑々たる小才子に過ぎない。

荒井泰治

仙臺のツーツクだが、臺灣で後藤や兒玉の翠丸に嚙り付き、戦後のドサクサで大儲けをやり、今では百萬以上の長者株である。人物は多少鈍重だが、久しく世の波風に揉まれたトけ大に圭角が取れ、製糖會社其他幾多の事業に關係してゐる。此男も矢張金錢の餓鬼を免れず、無上理

想とする處は、美形を宏屋に擁し、出來得べくんば勳爵に鼻を蠢めかしたい位な處だ。

坪谷善四郎

東京市會議員の肩書を有し、博文館理事で、彼是二十萬位な産をも作り、中流紳士として或一面には随分幅を利かしてゐる。博文館主と同じく、越後出で先代の大橋佐平に引立てられ、其股肱として懸命の努力をなし、博文館の成功と共に、彼も其恩恵に浴したのである。

非常に伶俐な質で、文章も作れば俳句もヌタクリ、就中寫眞は道樂藝として、頗る妙所に達してゐる。又旅行が好きで、内地は勿論、遠くは支那朝鮮より、歐米の山水を踏破し、紀行文は大天狗である。今日の成功せる彼を見れば、如何にも好箇の紳士だが、其昔彼が早稻田の貧乏書

生より進んで博文館の店員たりし時代は主人の佐平を助けて随分悪
 辣なことも演じたもので今猶ある學者連の眉を蹙めてるものもある、
 兎も角財と色と虚名が大々的好物で市會議員の選舉競争毎に米搗バ
 ッタ宜しく選舉者の家にお百度を踏み其聲の風邪でもないのに噎れ
 て出でざるは安もの買ひし祟りなるべく、マツタ中位の富を作せるは
 越後式に無暗と溜込める結果と云ふの外はないが。彼の全體の力量
 から見て、今位の身分は最も適したもので、其以上は不消化に陥る患が
 ある。

益田 孝

三井王國の大頭領だが極めて慾の皮の厚い男で、彼が三十年來三井
 より剥ぎ取つた私財は積りくつて今や八百萬の巨額に達し、猶年々

三井より享くる配當は彼是れ三十萬圓に上るといふ。だが主人公の
 三井側の財産は銀行物産等に悉く集注固定され、其一門にて各々配
 當されるは僅に三四萬に過ぎないとのことだ。是では全然奉公人へ
 の奉公見た如きもので、其詰らなさの極度ではあるまいか、此一事に徴
 するも大頭領たる彼が人格の如何に險惡酷薄なるか、説明されてゐ
 る。殊に今回彼が配下の三巨頭飯田岩原山本が最も耻べき刑辟の人
 となれるが如き、其責めの歸する所は三人者よりも寧ろ彼の監督不行
 届きの爲め、否寧ろ彼の旨を啣んで然りしものと云つて宜い位だ。然
 るに彼は恬然として空嘯ひてゐる處を見ると、彼には一片の道義てふ
 ものもない呆れ果てたる醜爺である、眞の紳士ならば三井に對し又天
 下に對し宜しく皺腹切つて死すべき處ぢやないか。
 元來彼は通譯上りで、語學者の大に持囃された時代に大藏省に入り

造幣權頭迄躍進し。後井上馨の世話で三井に入つたが幾度か三井の危殆に陥つたことあるも彼の手腕では如何ともする能はず中上川の活動で初めて恢復した。爲に彼も中上川には頭が上らなかつたが其死後彼の獨舞臺となり餘り私慾が過ぎて遂に今回の失態を見た次第である。而も今回の暴露は僅に一部分で猶仔細に穿鑿せば幾多の曲事が彼を中心として簇出するであらう。這麼な連中が三井の頭梁株で其股肱が盜賊の口密錢を刳る位だから什麼しても三井の富も彼の富も皆財惡の塊でなくてはならぬ譯だ。

島村抱月

早稻田出身の文學者としては餘程上出來の方だが。何分感情に支配され易く、昨年は文藝協會で師の坪内逍遙と衝突し次で藝術座で座

員等と喧嘩別れをなし、松井須磨子に魂魄を奪はれ家付の娘に(今の妻)は嫉妬の角を生さし。結局須磨子と手を携へ旅役者となり田舎廻りとは扱もなさけない男ぢやないか。大人しくして早稲に納まつてゐれば臆ては博士ともなり坪内の跡も繼げたらうに心柄とは云ひながら馬鹿氣た真似をしたものだ。彼れ元島根縣邊から飛出して來た素寒貧で、島村家の先主人に拾はれて其玄關番となり、早稻田通をなし。學績優良なので遂に島村家の養嗣子となり洋行迄さして貰つたと云ふから、滅多に道樂のされた義理ではないのに、今では全然昔の恩を忘れて如彼な状態だ、島村一門は云ふ迄もなく坪内の感懷は什麼なだらう、是れだから容易に人の世話は出來ないものだテ。

川上俊彦

小兵だが露語通で精悍な男だ、久しく哈爾賓から莫斯科邊で領事を
 してゐたから、露西亞式の大きい處もある。新滿鐵内閣の理事として、
 専ら露國との折衝に當つてゐるが、門外漢の陣笠などにやらするより
 も儘に適役たるに相違ない。だが彼が外交官として未だ是ぞと云ふ
 記録を作つたことはない、其長所は鸚鵡的にオロスキーの聲色と、ロス
 ビー買の案内に精しい位なものだらう。恰も佃一豫の同じき滿鐵理
 事として、其支那通たるの故を以て専ら支那交渉係となつた如なもの
 で、兩者共に久しく彼地に居たお蔭で、突然理事に買上げられた譯で、其
 他には何の異彩をも認めぬ、故に月並の通譯に稍毛の生えた男と見た
 ら先づ間違のない所だ。序に此男の秘を發しておくが、非常な出齒宗
 で曾て軍政時代に大連にゐた時も、熾に浮名を流し、其れから哈爾賓で
 は日露支三様の娘子軍を對手として、大に勇名を轟かしたものである。

添田壽一

彼は福岡の秀才で、學問辯舌兩つながら隅におけぬ代ものだ。然れ
 共其器格極めて小にして學者で云へば大學教授、政治家とすれば次官
 風の事務、一天張の方で、獨立的の創業と經營は望む能はざる所である。
 順よく行けば遠の昔に藏相にも男爵にもなれたのだが、一たび調子が
 外れると單の壽一で終らねばならぬ、コ、ガ官海游泳には非常な運不
 運のある所である。彼も事務家としては相當な腕をも見せたが、獨立
 機關の首腦者としてはヘマ計り演じたものだ。例之ば興銀總裁とし
 て木偶の標本となり、日佛銀行でやりかぶり、排日問題で渡米しては大
 味憎を付くる等、其晩年は段々振はなくなつた。是等は彼の徹頭徹尾
 器械的に出來上つてゐる所で、手腕で通す腹で押すと云ふ柄でないこと

が證せらるゝではないか。

日置益

山座圓次郎の代として支那公使となりはなつたが、一向代榮がないので支那通連は殊の外消氣てゐる如だ。彼は一時獨逸かぶれの氣障男で、お粗末な髯を何時もカイゼル式に捻り上げてゐた。其頭腦は極端な官僚式で、器局も小さく政黨嫌の新聞記者嫌で通して來たが。北米の移民排斥病が南米にも傳染して來て、智利新聞は熾に排日熱を吹て來ので、彼も黙つてゐられず、俄に舊套を脱して記者款待をオツ始めたと云ふ位な時代後である。

彼は外交官試補から書記官となり參事官となり公使となる迄前後二十四五年間に亘り、朝鮮、支那、北米、南米に轉輾したお蔭で、英佛獨露

西五ヶ國の語に通じ、通譯としては誂へ向に出來てるが、什麼も頭腦が餘り透徹せず、加之に器局が小さいから、一國を背負つて列國使臣と驅逐するには危険ないものだ。殊に智利のサンチアゴに七年間も午眠してゐたから、大分時勢に暗くなつてる如に思はる。現今外交上で最も困難なのは支那で、ゴ、には當然大使格の貫録もあり手腕のある男を遣らなければ、我が勢望も利權も喪失する許りで、折角の三大戰の効果も零となつて了ふのである。

對手の袁以下、支那大官連は、久しき列強の折衝に揉み上げられ、且つ權謀術數を貴ぶは、先天的に出來上り加之に列國使臣の譎詐陰謀計りがたく、而も内にあつては對支外交の基礎常にグラツキ勝にて、國民の慾望は益々興奮するのみなれば、此處に公使たる以上、並大體の決心ではお茶も濁せぬ譯だ、彼も半世を擧げて外交事務には、孜孜々々とや

つて来たには相違なからむも、事務勤勉や語學博士で對支外交に殊勳を奏する譯に行かぬ彼や、須く乾坤一擲の大勇猛心を振起して宜しく前任者たる山座水野の弔合戦をなすべしである。

島田三郎

悪人ではないが別段是といつて善事も出来ない男だ。當然現内閣には文相たるべかりしを、大隈や加藤の餘りに閥族に媚したため、豫望の椅子は一木に占められ、彼は豫備隊編入の止むなきに至つたのである。が其全盛時代は往年毎日新聞に據り、星亨の攻撃に全力を注ぎて満都の血を湧かした時で、其論鋒犀利、歩武堂々、遠の醜魁星をして戰慄させ、遂に兇刃に仆れしむるに至つた。其より最近山本内閣の攻撃に亦復全力を傾け、首尾克く之を潰滅させて殊功を樹てたのだから、此報酬

として文相位はと我も人も疑ふの餘地なき程なりしに、事實は之に反することゝなつた。故に世は彼の反嚙最も甚だしかるべしと期待せしに、事實は又之に反したので、彼も左程な好々爺ではないかと探つて見れば、果せる哉大隈の命で、三菱は加藤を経由して、彼及大石箕浦に三萬圓均一の慰藉料を出してやつたとの事である。ドーセ前途一年も續くまいといふ内閣に伴食の花を買ふよりも、黙つて團子に有りつゝいた方が宜いので、扱こそ一日喋舌らなければ、癢が起るといふ先生も爾來口を噤して不平の蟲を引込して了つた相だ。

由來彼は一種の理想に囚はれ、頗る偏屈な處もあるが、一身の利害だけは頗る打算的で、是迄に黨籍をも一二度變へたし、主張をも都合の宜い如に時々取換へる。然れ共選舉民と一般國民は、平氣で之を容るゝの雅量があるからお目出度い譯だ。例之ば先年彼の國民黨を脱して桂

の傘下に走るや穢多村を以て痛罵せられしに本春海軍を攻撃して山本内閣を仆すや忽ち正義のチャンピオンとして彼の選舉地たる横濱市よりは特に自働車を贈られ彼の薩摩守たりしなどは慥に薄ッペラなる現代の趨向を卜するに足るのである。

彼は蓄音機的饒舌家としては海内一品ならむも何等の威重も感興もなき處は眞に物言ふ器械にしか過ぎない。且つ彼は實社會に暗く實務に迂なる爲に會て築き上たる毎日新聞も果敢なく開城し又其前妻の書生と姦するをも知らざりし程であるから時々他に欺かるゝこともある。

阿部泰藏

明治保險は保險界の横綱にして彼は其横綱の主體である。一見し

た處誠に立派な紳士だが少しく古疵を洗つて見ると矢張り風上に置けぬ喰はせものだ。世人は彼が旭日隆々の勢ある三大會社の牛耳を執れるに眩惑され彼を純金の純視してる如だが一皮剥けばあゝ彼の男でもかゝと叫ばしむる。然れば會社の方もメスを入れて見ると膿汁を包んでゐるが此處には先づ彼だけに止めておいて會社の腐膿剔抉は他日に譲ることゝする。

彼は愛知のオキヤー種で豊田鉦剛てふものゝ三男だが縁あつて静岡在の阿部三圭の養子となり養家の出資で慶應義塾に學び卒業後母校の教員に擧られ進んで塾頭となつたが更に養家の脛を嚙つて米國に留學し。黄金の外に何物もなきヤンキー風に揉上げられたる彼は歸朝後頓に洪恩を荷ひし親切なる妻が厭になり無理に難癖をコジ付けて之を敲き出し今度は金の唸れる三菱王國の關係先より新妻を

娶り之を囷として、王國より先づ十萬圓を借出して生命保険を始めた。然るに時勢は恰も保険の必要を認むるの機運に會してゐたので、頓々拍子に功を成し且つ背後には王國の聲援ありしたため、遂に今日の大を見るに至つたのは、至極僥倖の男と云はねばならぬ。

左れども持つて生れた陋劣鄙吝の根性は何處迄も隨伴するものと見え、其社員某の痛罵を聴くに、兩三年前會社創立二十年紀念式を舉行するや、會社創立功勞者に對して十萬圓を支出せるを、彼は之を悉く自己の囊中に捻込みて、鏝一文だも願たざりしと。之を曩の恩妻敲出しの一幕より推想すれば、然もあるべき事で尙隱微の裡に葬られし此種のもを摘擧せば驚くに足るものあらむも。這麼な陋劣漢の身邊をホジクリ廻るも筆の穢れだから先づ是位に止めて置く。

前海軍大佐太田三次郎

海軍評判の志士として片桐酉次郎(前主計大監)と並んで謳歌せられ、兩者が權兵衛に讖首され且つ軍籍を剝がるゝに及んで、江湖の同情は翕然として其身邊に聚まつた。彼が一身を犠牲として薩関に肉薄し、其積惡を痛撃せるの報酬としてこの同情を博せるは當然の事にて、此舉を敢てせる彼が萬般の行爲も定めて公明正大のもの、何人も思ふならむが。不幸にして化の皮子の俎上に置かねばならぬとは聊か遺憾な次第である。傳ふるものはいふ彼の海軍を讖首さるゝや、彼は如何にして今後の生計を立てんかを苦慮して、一日其隣家の富木秀一元、小石川警察署警部に對つて良策を問ふた。然るに富木は言下に貸金業の最も堅實なるを説いた。其結果彼は一萬圓を提供し、茲に大秀社てふ看

板を富木の宅に掲げて、一口五圓より十圓最多額を二十圓止りとして、熾に貸出をやつた處が是は意外に繁昌し其爲に彼の生計は頓に豊となれるのみならず、今では資本に幾倍の産をなしてるとの噂だ。世人の蛇蝎視する高利貸を隠に目下評判の名物男が營まするとは言語道斷な沙汰ぢやないか、金儲にもモ少し品の好い事もあらうに。彼のを敢てするのが、若し事實とすれば宜しく其面に痰唾を吐くべしだ。同情に驅られたるものも亦た宜い面の皮だ。

杉山茂丸

由來福岡には什麼いふ風の吹廻しにや、兎角變り種の飛出す處だ。現に壯士の大親分頭山なり先頃物故した山座圓次郎なり、茲に其正體を引剝んとする法螺丸の茂丸の如きは皆其れである、法螺丸の法螺

に妙なることは手練手管の粹を極めし女郎の如く、彼の法螺を聞かされては大抵なものが吹飛はされて了ふ。但其場ではナール程と首肯さるゝが退いて能く考ふると忽ち怪しくなる、そこで之を實際に質すと影も形もない全然雲を捉む如だ、是が即ち法螺たる所以で、妙は其痕跡のない處にあるのカネ。

然れ共彼が官閥の豪傑と交を訂し、情海の古兵等に大盡風を吹かすには、却々少ながらぬ財が要る。其處で釜山の築港だの、阿里山林の拂下だの、博多灣築港だの種々雑多の事業に手を出しては見たが、元々金さへ掴めば、其業の成否は問ふ所でない、何程か掴むと同時に颯々と次なる藝當に取かゝる。曾て伊藤井上の髯の塵を拂ひ、桂後藤を骨抜にして友人扱をなす迄になり、長閑の大小頭殆んど皆何等かの楔子を有し。政變ある毎に大小企業の噂ある毎に、彼の影は稻妻の如く

に意外の邊にも出沒するのである。

斯く彼は一枚の舌だに健全で、一臺の自動車だに驅廻せば各種の問題を不思議に解決するの能力を有してゐる。然れ共本來無一物の彼だ、毎時も企業の問題で頭ばかり刳る譯にも行かず、其彈藥に窮する時は、會社銀行其他富者を捉へて金を借る、其借様が尋常でない、證文も入れなければ頭も下げない、例之ば對手方に、

「オイ什麼だい、少し金はないか頼むせ」

是位な處で切上げて餘談に移る、而して歸る時には一封の小切手なり、現ナマが袂から轉つて來る、彼は其封をも切らずに之を自分の用人に渡して願みないが多い時には一二萬圓もあることがある相だ。此袂のお土産を得る爲には、彼も對手方に一種の貢獻をなし、又何程かの缺陷を捉へてからの會談なれば、贅語を要せずして彼の來意は直に對

手方に了解さるゝ。是等は借金のもも妙なるもので、彼にあらざれば他のものには出來ない藝當である。一言にして彼を評すれば、幫間と威嚇の妙を極め、社會の暗渠を最も巧に辿りゆく癖ものである。

尾崎行雄

深い罪のない男だが、兎角見榮坊で殊にテオドラてふ混血の見榮坊一點張の良人に、走をかけたる令夫人が附纏つてゴ座る。デ生活費の嵩むこと夥しく、今猶借家住居で彼處此處を轉輾の状態だ。先生の雄辯は既に定評のある所で、一たび演壇に起てば恰も猛虎の嘯いて百獸の怖毛を立つる如な、威重と快感を與ふる。然れども長所は即ち短所で、此舌あるが爲に屢々禍を買ふ會て憲政黨内閣の文相時揚代に、共和政治でなければならぬと言ふ様な脱線振りを、時の閥族連に

足を取られて遂に相冠を擲つゝの止むなきに至り、先頃又教育家を對手に日本人を罵倒したと言ふので、反對黨に手痛く衝込まれる、等誠に氣の毒な感催すが、是皆餘りに調子に乗り過ぎたるの結果に外ならぬ。元來政界に立つ以上、一人一黨主義で何事も出来るものでない。大小は兎もあれ必ず一團體を提げざれば如何なる勇將も智士も戰場に功を樹つゝることは出来ないのである。然るに彼は辯論の雄で且つ人格も立派なので、憲政擁護以來頗る聲望を高め、遂に一人一黨連の集團たる中正會の牛耳を執る如になつた。而して其黨の基礎未だ固らざるに當つて、大隈内閣の組織さるゝに會ひ忽ち法相の椅子を向けられたので、待つて居ましたと言はん計りに、黨議は宜い加減にお茶を濁して其椅子を占めたのだ。が其爲め黨中では大分囁々云つてゐるものがあるが、是も其原因は彼の見榮坊の蟲を押へきれぬからで、當然の順序

よりすれば黨内の他の有力者を推して、自身は黒幕のおん大として采配を振り極めて堅固な地盤を築くことに努力せねばならぬ。今秋の議會は云ふ迄もなく解散するであらうが、其選舉戰に臨み果して如何の成算がある又其迄に長廣舌の祟りを重ねば宜いが。那の點から見ても彼は空想的の議論家で實行の人ではない。前後七年の東京市長を始め、再度の内閣入に就いて見るも一切其成績の見るべきなく、何人も辯論に於て徒に其雄を認め、實務に於て餘りに呆ツ氣なきに呆れぬものはない。舌と見榮坊の祟りも亦た怖いものぢやないか。

近藤廉平

温厚な男だが勤勉でゴ機嫌取に妙を得てゐる。それで慶應を出づ

ると共に郵船に入り大に社長吉川のお眼鏡に適ひ順風で押通し課長より副社長進んで吉川の後を襲いで社長となり男爵迄も頂戴せる程な幸運兒だ。彼のゴ機嫌取の辣手は毎時も航路補助で發揮せられ當局者をも代議士をも適所に適薬を喰せられ大抵舌を縛られ骨を抜かれ、マンマと二三百萬位のお情に浴るのである。此お情金は郵船の命の綱で彼の重をなせるは、其攫取に妙を得てゐるからであるが、彼は獨り之のみならず情海に棹して蓄の花を散らし、姥櫻を靡すの術は、航路補助以上の妙を得てゐる、眞の紳士の意義より見れば齒せるに足らぬ男だが、俗界に雄を唱へ、群盲を欺くには彼の如きは最も老手とするに足る。されど彼を學ぶの末輩となつては人の皮を被れる一種の獸で、彼は其先達の地にあるから油断は出来ない。

豊川良平

岩崎彌太郎の片腕となつて三菱王國を築上げた財界の元老で、器局大きく熱力もあれば智略もあるが、其型は同じ土州系の後藤象二郎なり大石正巳なりに酷似した處があつて、何となく茫漠としてゐる。少時志を立て一度は天下取りにならんと、豊臣・徳川・陳平・張良の一字づゝ取合せて豊川良平といふ新姓名を製造したものだ。それで今日に至るも、猶機會だにあらば天下は取れなくとも、政界の雄となりて思ふ様に號令して見たい位な餘裕はある。這麼な風だから秩序ある細い實務などに適し様筈もないが、其代り或目的を達せんが爲には、如何なる惡辣手段を弄しても平氣で行ツつける、彌太郎が那れだけの産を作るには、什麼してもなくてならぬ人物であつた、彌太郎の曾て泥棒以上

の振舞をなし、纒に罪を遁れし如き危き橋渡りの藝當は、彼も屢々試みしなるべく、到底地獄行の仲間入は免るゝ能はずとするも、一寸味の味のある老頭兒である。

園田孝吉

極めて平凡な男だが曾て外交官をもしたこともあるし、圓滿老實が其賣物である。正金頭取より十五銀行頭取となり、華族金融の大番頭としては適材らしい。だが薩人に似合はず熱力も覇氣もなく、洵湧せる財界に權を取つて救済し得る如な手腕はない。一寸見は田舎の牧師位な處だ會計検査役の北雷和尚とは同國同窓であるが、和尚の如き突飛な奇風は鼻糞程も彼に認むることは出来ない。又時々英國風を吹かして財政論を控ねることもあるが、是は河童の屁程の反響もない愚論許りだ。

渡邊亨

先般滿鐵改革の機會に乘じ、理事の跡釜に据らんとして成らざりし彼は、重厚の質を缺ける其反面には頗る獨才に長じ、能く機を制して利を射るの徒である。稻門出身で新聞記者となり、株式取引所の番頭となり、大に社會裏面の情僞に通じ、進んで生命保険だの水力電氣だの種々なる朦朧會社の重役となり、兎も角所謂紳士級に入つた男である。然るに日露戰役後滿鐵プロの天春又三郎が、岩下清周等に計り、營口水電を起すや、彼亦た其棒組となり、百萬圓の會社とし、彼は其専務取締役に任じたが、愈々實行の秋となると、豫定の進行は絶對不能となり、五拾圓株が拾圓臺に下落の難境に立つた。此に於て彼は惡事にかけて

は一種のジゴマ式を備る天春(支配)と相謀り満鐵の幹部連を生擒した。就中犬塚信太郎田中清次郎等は同穴の狸同様となり遂に一株につき三十幾圓二萬株に對し六十幾萬圓の利得を占めて營口水電を滿鐵に賣飛ばし其利得を同醜間に頒つたとの事だ。之あるが爲に彼の理事候補たるや正直なる國澤新兵衛は深く之を憂ひ自己の副總裁就任と同時に彼の姦猾なることを中村總裁に談じて忽ち彼は落選の人となつたと傳へらるゝが是は事實然もあるべき筈だ。

新聞や株で鍛へられたる彼の事として事務も敏捷で何事をも克く辨じ得るの材幹を有するだけ危険の度も其れだけ猛烈で彼の鬼怒川水電に利光鶴松と相抱擁せる如きは最も好い對照である。

頭山 滿

と云へば何人も壯士の親分志士の重鎮として知らぬものはない如である。粗放磊落落宕不羈などいふ漢字の形容語は彼の専有に歸する如く親しく其人に會すれば猶其以上に豪傑式な處がある。貧乏書生などが小使錢の請憐に行けばホイ少したが之を與るとて袂より紙幣銀銅貨を一掴みにして投出す處などは全然算を知らぬ風である。又往年孫興等が支那革命の旗上をした時彼は犬養毅と相前後して上海に往たが表面の口實は壯士の取締といふ如な譯で彼の上海客中は實に悠々寛々たるものであつた。

然れ共誰か知らむ彼の頭腦は頗る緻密で人の知らざる處に思ひを練り他の爲さる處に心を致し水も洩さぬ點がある。然ればこそ徒爲無職で帝都に傲臥し未だ何等の醜聲をも洩さねば尻ツ尾をも出さず自ら一世に高ふし得らるゝ譯である。彼に對して算をも知らずと

か尻が結ばらぬとか云ふのは、彼を知らないからで、英雄人を欺くとは此男のことであらう。

星 一

彼は衆議院議員としては陣笠に過ぎなかつたが、實業にかけては稍見るに足るものがある。所謂實業とは賣藥業で、彼は賣藥の本來九層倍の利あるに着目し、自在の辯で資本家を煙に巻き、遂に星製藥會社を創立し、其發展と共に權樓の補綴に忙殺されながら、熾に賣藥貿易を説いて曰く、亞細亞の大部に日本賣藥を普及せしめば、少くも一ケ年一億萬圓以上の收得は左程困難の事にあらずと、是れだけの妄想があるから、槍線會社を槍線する勇氣をも持續され様が、彼の此狂炎と妄想に中てられたものこそ宜い面の皮だ。彼れ會てコロンピヤ大學を出で、米

國で小新聞や雑誌の經營をやつてゐた、那麼な事では拜金の宗旨に適ふ程財の儲り相もないので、遂に全く前垂黨となつて、今様の富山の反魂丹屋と化したのだ。其でも虚名が欲しいと見えて、陣笠の競争に餘念ない處を見ると、何處迄善い男になりたいか知れない。だが、名譽と財の兩天秤で成功し様とは、チト六づかしい注文だよ。

松下軍治

代議士兼やまと新聞社長の松下軍治は紳士として社會に活動するには最も好い武器を有してゐる。現代に於ける舌と筆との威力は平和の時の砲と劍で、劍は筆で代用され、舌は砲の働きをする譯である。然るに此武器を善用すれば、國論の振興も社會の警醒も出来るが、之を悪用すれば、脅喝の道具ともなり、佞媚の機關ともなる。而して彼れ固

無頼無慚の徒、偶相場に中りて新聞を買占め更に之を利用して東京市民の票數を買ひ、一方には弱點を有するの富豪を威嚇し、又虚榮に憧がる、偽紳士を煽り立て、間斷なしに我懷を肥すことにのみ腐心してゐる。之を聞く生前金貸業で鬼と呼ばれし横濱の平専さへ彼の爲にはマンマと七十萬圓程な大穴を開けられ、又伯田中光顯は相場の相棒となつて百萬以上を失ひ、其爲め目白の宏邸をも幾多の骨董をも賣却するの破目に陥り、又近く大隈伯は三萬圓を絞られ、三井と川崎造船所も少なからず搾取せられたと傳へらるゝ。是等は彼が行運中で著るしきものゝ一端を擧ぐるに過ぎざるも、彼が其武器を悪用して、如何に社會の或部分を攪亂しつゝあるか、推測さるゝではないか。然れ共彼は武器を悪用して自我慾を發揮すると共に、又巧に當路者と密接するの術を知つてゐる、故に能く刑辟を通れ且つ一種の勢力を

も扶植してゐる。近時松下の小型なるものに實業之世界社長の野依秀一がある、野依は出獄以來會社銀行を威嚇して四五萬圓を獲たと傳へられ、忽ち復た獄裡の人となつたが、彼は小威嚇の術に於ては、松下以下に獨特の妙を有してゐたかも知れないが、器格は松下よりもズット下り、其獲たるものを綠酒紅燈の間に擲ち、賣春婦の媚を得る位を唯一の樂としてゐたらしい。之に反して松下は兎も角も、社會の活舞臺に對つて賭博を打ち續けてゐる。其人格行動共に大に排撃すべきだが、社會の彼に武器を許して平然たるは、抑々何の故？ 猶野依の小器にして事を急ぎしは、其出獄後俄に勢力を恢復せんが爲に實業の世界誌上に監獄は大學校てふとを大々的に鼓吹し、一たび赤い仕着せを纏ふて監獄生活をなさよれば、人たる能はざるかの如くに曲説せるため、其結果は天下の青年に惡事を奨る如になり、各地方の教育會等より頻

に之が取締を當局に逼り來つた。如斯なつては當局でも放棄しておく譯に行かす罷り違へば恐るべき社會問題にもなり難くないと云ふので狼狽して彼の行動を探查するに、各銀行會社等に對つて大膽なる威嚇をなせる形迹をも續々として發見され、寧ろ彼が二年前の入獄當時よりも更に巧妙痛烈なもので、其儘に黙視し難くやありけん、遂に彼及び主筆、營業部長等其幹部の三者を檢舉して、獄裡に投ずる様になつた。思ふに野依の如き、誠に小才の利く男には相違なきも、天の與ふる自然の時を待たずして、矢鱈に功名に急りしたため、自繩自縛の愚を見るに至つたので、是れ遠く松下に及ばぬ處である。

國澤新兵衛

鐵道技師としては充分なる經驗と手腕を有し、其斤量も鐵道界の先

輩野村、古川等と伯仲の間に居る。其言語、舉止の溫雅なる如く、其人格亦た割合に皎潔堅實で、曩に中村是公の總裁時代に幹部連に熾に私曲の行はれ、巨萬の財の常に煙と消え、就中三井系統の犬塚信太郎、田中清次郎等の情海にのみ耽溺するに方り、彼のみは猶泥中に芙蓉の一輪を見るが如き者があつた。世間では彼が副總裁の位置にありながら、其等の群醜を掃蕩する能はざるを咎めしも、是は彼の手腕では到底不能の事だ。政友會の力を以てするも、一犬塚を放逐し難く、遂に野村、伊藤を卷添にして始めて往生せる程の根底を有せる三井、後藤、兼長、閎の混成地盤なれば、例令其代表者の二三を鹹首するも、容易に地盤迄破壊する譯に行かぬ。だが掃除を行ふには地盤の破壊が必要である。而して是を國澤に望むは木に縁つて魚を求むる如なものだ。又國澤其ものが既に後藤の半乾兒たり、三井と長閎の半寵兒とも云ふべき系統

を有してゐるではないか。故に曰く彼は單割合に皎潔だと云ふ迄だ。一言彼を掩へば好々爺の標本である、惡をなす能はざるが如く善にも弱い可もなく不可もない男だ。今一步進めて言へば有つても無くても宜い男だ。だが滿洲の伏魔殿たる滿鐵を何物にか利用せんと欲せば彼の如き好々爺を樞要の地に立て、其蔭に紅舌を吐くのも面白からう。然れども此處のカーブを如斯作つて彼處の橋架を如斯改めねばならぬといふ如く、工作上の總後見役として、彼は猶生命を失はぬ。而して大陸發展の今後幾多の滿鐵を連ねばならぬ我邦の立場として亦幾多の國澤を要せねばならぬから、彼たるもの須らく自重すべしである。

福島安正

壯時西比利亞の曠原を單騎突破した程な勇氣と健康は、六十五歳の今日迄甚だ減せず。彼が關東都督として其管下を巡視するや、多くは馬上屬僚を從へて、南滿洲七百餘哩の鐵道沿線に於ける官民間の情誼を視察するに、何人も其精力の旺盛に敵する能はずと云ふに考ふるも、彼の飽く迄努力的で頑健無類な點が證せらるゝではないか。然れ共此巡察に於て果して何程の効果を得何程の進歩を認めたと云ふことは疑問である。丁度其が疑問である如く、彼が三ヶ年間都督として随分精勵はしたものの治績としては何の認むべきことがあるかと問は、是亦ノーともエースとも應じかねるであらう。

彼は實に事勿れかし、八方に善かれかしてふのが其處世の信條で、之を行ふに馬車馬的の勇氣と熱力を以てするだけで、其名譽を賭し其運命を擲つて、自家の抱負を遂行するが如き大勇猛心のないのは彼が四

十幾年來の行逕の歴々として之を證明して餘りある所である。故に川上時代には川上に善く、兒玉全盛となれば兒玉に謳歌し、桂寺内萬能となれば桂寺内に親しみ殆んど適くとして可ならざるなしである。之あるが爲に未だ曾て權勢との衝突を見ず頓々拍子に頭を擡げ遂に都督ともなれば大將ともなり、兎も角も軍人として最も名譽ある終焉を告げた。

然りながら所謂名譽は、位勳爵祿の其で、其人物手腕の凡々として何等見る所なきに至つては、呆然たらざるを得ない。彼は數ヶ國の外語を巧に繰つり外交の道にも存外堪能な所あるも、軍人の生命たる戰鬥、攻略の術にかけては至極凡暗である。だが彼の今日あるは其凡暗にして單權勢に對し世間に對して、彼一流の外交に巧なりしが爲である。凡々子も大將まで(後備でも)登り詰むれば、亦た偉い方だらうが、少しく

皮肉くつて見れば先づ如斯なものだ。

中村 覺

頃者退職し、馬上日本順禮を試み到る處に忠君愛國を説く、是は蓋し都督以上の適役だ、軍人の古物は皆如斯な心掛が肝心々々

メツケル仕込の舊式の軍人智識を有し、軍事に對しては兎角評曲的な批評をやりたがるが、何を云つて居るか薩據解らない。部下には到る處で冷酷の評あるも、上官の機嫌を取ることが頗る巧妙で、特に長閑元老間に評判が宜しい。お蔭で侍從武官長、東京衛戍總督より進んで關東都督に漕ぎ付けた程だ。其器格は狭小で參謀風と事務官的を脱する能はず随つて頭領として事を適材に一任することが出来ぬ。日露戰爭の際旅順攻撃で白禪隊長として有名だが、之は何等の功を奏せざりしのみならず、寧ろ一師團を全滅せしめたゞけで、彼自身は男

爵を貰つてお目出度からんも、死んだ師團の將卒こそ容い迷惑だ。彼も寄る年波に皺の數こそ殖えたらんが、街氣と稚氣は依然として満州へ同行したらうから、是から幾多の府員と居住民等が、小煩いとだらう。

中村雄次郎

久しく枝光製鐵所長官として、殆んど瓦解せんとする迄の悲境に沈める製鐵所を復活せしめたのは、彼の努力と方寸に出づとは、江湖の認むる所である。彼が如何に事務的材幹を備へ、且つ企劃と統率の術に長せるかは、此一事に徴するも明である。又是より先陸軍次官として、彼が明晰の頭腦は能く錯綜せる行政事務を處理して、遺算なく割合に好評を博した。此他彼は長閑の鼻息を伺ふに巧にして、何時も順風満帆の坦途を渡つて來たのである。今次野村の後を承て、滿鐵總裁たりしは、適材を適處に置かれたものと思はるゝ。

然れ共彼は、慳貪の天稟を有し、權勢に媚るが爲、其私財を殖し、顯職を得る上には、成功の人たるも、人格の點よりすれば、風上に置ぬ男だが、之を前總裁の野村なり、前々總裁の中村に比すれば、寧一段上位にあるやも知ぬ。兎も角も、大戦後の滿鐵は、大陸發展上、多大の責任を有する事なれば、彼の利鈍は、今後に徴するの大に興味ある事だらうと思ふ。

岩谷松平

天狗の岩谷は、俗中の大俗物だが、奇抜な廣告術を煙草に利用して、一時巨萬の富を作れるも、其後煙草官營となるに及び、政府より得たる賠償金を擧げて、銀行鐵道其他各種の事業に投せしに、熟れぬ上に監督不行届のため、悉く失敗し、今は澁谷の奥に天狗山と銘打てる宏大なる

邸宅をも債務の擔保となり、遠からず彼の姿も鞍馬山にでも消え失せ相になりかけてゐる。

些少の才を鼻の先にブラ下げて、僥倖に奇利を得、世の中は欺き易きものと高を括りしに、實社會は彼に先んじてドシ／＼進歩せるため、煙業を廢めたる後の彼は、ズット時代後れとなり、其爲め何を企て、も一切萬事敗亡を續け、遂に無一物の元の木阿彌に返り、老後の耻を晒さねばならぬとは、自業自得とは云ひながら、憐至極であるが、是は一に彼が慾張過ぎた結果で、ソ一柳の下に何時迄も縮は居るものではないゾ。

淺野總一郎

氷水賣石炭擔より成上けて、兎も角も一代の富豪級に上つたのは、豪いと云はねばなるまい。然れ共現在の彼の財産は貸借を差引けば剩

す處は寧ろ借の方が多しとのことだが、他の幾多の富豪や成金連にも其實此類のものが頗る多からうと思はるゝ。

彼に貴ぶ所は機智ありて何事にも先鞭を着け、又如何なる困難に當つても慥ともせず、縦横に切抜けて行く所の膽力と手腕で。彼に病とする點は、鄙吝汚劣で耻をも義理をも辨へず、利のあることなれば何でもご座れで猛進する。且つ毫も素行を顧みず、六十の老爺でありながら、何時も賤妓を擁して浮名を流してゐる。一家庭の主翁が之れだから、其子女も皆淫奔度なしといふ風である。處が如斯なのは、獨り彼れのみならず、他の日本の成金連は、多くは此仲間たるを免るゝ能はず、而して社會の上流に間斷なく不徳の種蒔をやつてゐるから、情ない譯である。

松井慶四郎

總すかんの評あるのみならず亦實に着々外交の機宜を誤り國民は勿論元老までも配慮措く能はざらしめつゝある外相加藤高明の女房役に松井慶四郎がある。蓋し松井はマヅイの辻占とも見るべく彼の長き外交生活中に未だ一として之は偉いとか痛快とか云はるゝ程な事を認めない。左れば其後輩の石井山座倉知輩に逐ひ越されて卒と次官迄漕付けた處を見ると如何に其凡較なるかと徴せらるゝではないか。但偏屈で圭角多き加藤の女房役としては恐らく彼程な適役はなからう。何となれば如何なる見當達の命令にも唯々諾々として唯其ゴ機嫌を害はんことを恐るゝからである。然れども軍國多事の秋に方り夫の如きへマな外相に副ゆるに這麼凡較な次官と來ては時局の解決も寒心に堪へぬ譯である。

加藤高明

英國式大紳士として又世界的外交家として獨免許の大天狗だが這次大隈内閣の外相としてのへマ加減は一體什麼したものだ。太平無事の際なれば宜い加減でも濟まふが今日の如き一步を誤れば百年恢復の出来ないと云ふ如な大切の秋に些少にてもへマを行れては大變だ。彼たるもの宜しく一切の私を忘れ身命を賭して一國の運命を定めねばならぬ否らざれば速かに辭職して無能を謝すべしである。彼の相場は既に定まつた處で彼を用ゆるものは大隈の外にあるまじく又大隈ならでは彼の自由も利かないだらう。彼より其背後の三菱の富と大隈を除かば彼は唯傲慢なる一畸形兒とも云ふべく到底一

國の外交を双肩に負ひ得べき材幹ではない。現に自家の統轄せる同志會だに満足に號令は出來ないぢやないか定めて此春の總選舉では、摺た揉だの一悶着惹起すであらうが富の力の之に對して果して如何なる鎮火力を有するや否や興味ある見ものだ。

寺内正毅

一たび朝鮮太守として引込みし以來閩族操縦の絲は絶えず曳きつゝあるも時運未だ會せず徒らに其三角頭の光輝を増すのみである。然れ共既に全く世に葬られたと思はれし大隈伯が返り咲きする位だから早晩一たびは彼の天下ともなるだらう。何となれば原敬の彼に向つて竊に握手するあり長閩の元老猶國家の大事を議するあり。其所謂閩族は各方面に根帯を有することなれば想ふに隈閣の後を承

るものは先づ寺内を首として之に胴體を結付けるのが最も捷運といふべく。假に原敬をして内閣を承けしめば其首としてドーシテも寺内か或は之に類するものを選び以て政友會正面の防禦に利用するであらう。而して寺内も亦た如斯な器械首に利用さるゝことをも辭せぬに極まつてゐる是が權勢の得喪を以て生命とするるものゝ常運とも謂ふべしである。

原敬

政友會は何と謂つても聯合軍の大勢を反對に廻して天下を争ふ獨逸の立場で差詰め原敬はカイゼルの役廻りだ。彼が其譎詐權謀測りがたき處はカイゼル式とでも云へようが陣頭に立つて乾坤一擲の藝當を演ずるの勇猛は到底カイゼルの鼻糞にも及ばない。昨冬議會の

解散當日の敵軍は首相大隈を始め指揮官連は悉く壇上に現はれ突撃に参加したるにも拘はらず、彼及其黨の首領連は親ら之に應戦せず、著しく一黨の氣勢を殺いだ。獨り之のみならず彼は屢々元老を訪ひ、其結果は自黨の不堅實を世間に裏書する如き、何となく龍大黨の影の薄らぎしを想はしむる。蓋其黨と共に彼の運命も稍末路に近づけるものか。

八 新關西人物の消長と新聞界

名古屋—京都—大阪—神戸—岡山—広島—福岡—四國

兩三年來三寸の舌を鼓して、關西各地を歴訪し、部分的政況は勿論人物の情偽、操觚界の消息にも接觸し、爲に從來の感想を破り新記録

を作りしこと少なからず。茲に掲ぐる所は十把一束のものに過ぎざるも、予が歴訪前に彷彿たるが如き感想を抱けるもの、或は其地にあるながら燈臺下暗きもの、或は何物かに捉はれて正鵠を誤れるもの、鮮からざるべし。幸に予の所見に一致さるゝと反對さるゝとを問はず、多少の反響に接せば、曩の遊歴も亦空に歸せじ。

其一 (名古屋方面)

名古屋は東京と大阪文化の接觸地にして、一面東京風なきにしもあらざるも、大部分大阪式なり。特に其人物の多くが金錢の奴隸にして、輕薄陋劣なることは贅六以上と云ふも可なり、然るが中に偶々八代海相なり、加藤外相の如き、全然別模型の飛出せるは、鷺の兒に鶴の生れし如きものにて、是は例外なり。

然るに名古屋を支配せる舊勢力は何れも官僚系の人物にて曾て故桂太郎の第三師團長たり安場保和の知事たりし時代より歴史的に建造せられ降つて桂の同志會を創立するや名古屋には民聲俱樂部の設立さるゝあり其支部として市の有力者の大部分を網羅せり。

所謂舊勢力の代表者として著名なるは神野金之助加藤金三郎奥田正香鈴木惣兵衛兼松熙安東敏之の徒にして反對勢力とも目すべきは三輪市太郎清水市太郎早川龍介三浦逸平大口喜六田中善立森田小六郎等なり。而して神野奥田加藤等は皆一流の政商なるが就中奥田其牛耳を執れり。然るに昨年遊廓移轉問題につき前知事深野一三を筆頭とし加藤安東以下の幹部連が一蓮托生の最後を遂ぐるに及び俄然として其勢力を失墜し纔に彼等に代つて命脈を保てるは鈴木惣兵衛なり彼は外相加藤高明と宿昔の親交あり加藤の蹶起するに及び彼亦

た多少の得意を見るべし。

政友會を代表して三輪内藤魯一以下數輩あるも到底前者に敵すべくもあらず。三輪は元來鐵道請負業者にて無教育なるも可なりの策士にて曾て縣會副議長として幅を利し勢力を扶植せり。清水市太郎は跛足の醜男にて毎議會に極めて愚劣なる長廣舌を揮つて催眠劑となり。又熾に花柳界に出齒るの癖あり。彼は英國出身のバリストルてふを以て潭名して馬鹿ストルとも呼ばる。曾て議員會議の爲に渡歐し例の醜姿と馬鹿ストル式の催眠演説を以て大に帝國議員の面汚しをなせり。早川龍介は政友會を脱して同志會に走れる議員としては随分古顔なり。然れ共杜撰至極の山師にて往年富士山より電氣仕掛か何かにて雨を降らすの建議案を下院に提出して物笑となりしことあり。其他種々の業を企て利を射しも悉く敗れて今猶陣笠級を

脱する克はず。彼は元國民協會出身の純官僚型の男なれば復た昔の巢に返れるは毫も怪しむに足らず。其地盤は三河にて曾ては相應の素封家なりしも、多年政戦の爲に家産を蕩盡し、郷人は彼を呼ぶに井戸塀を以てす、這は彼の家には僅に井戸と土塀を留め、他は悉く烏有に歸せしめし爲なり、山師的有志家の末路も亦果敢なきものならずや。

三浦逸平は後藤新平系の相場師にて、先年鈴久の參謀長として一攫三百萬圓の暴富を作らしめ、鈴久の没落と共に巧に彼を喰ひ、先づ自己の根脚を定め、議員を看板として悪事を働くに抜目なし、相場師間にも其陰險なるが爲に常に蛇蝎視さる、但彼の後藤と善きは相互に利用せんが爲にして、利竭れば路人を視るが如けむ。田中善立は政友會より出でて政友俱樂部に入り、中正會に轉じ、大に其前途を疑はる。元後藤新平の殘飯を食ひ、其關係にて臺灣に行き、支那に渡り、何程かの阿堵物を

を其間にセシメ、陣笠の一を拾へり。故に後藤との縁固頗る深く、大隈内閣の成立及後藤割込運動には頗る厄鬼となりしは、一は後藤に酬む且つ彼を利用せんが爲なり。彼は坊主上りにて其嫉妬心の深きこと蛇の如し、一たび遞信の勅參たらんと一派の新聞記者を操縦し、頻に小策を弄しつゝあるも、一向に功を奏せず。其れ斯の如し、何ぞ中正會に勢力を得べけんや、彼は全然同志會の別働隊にて、黨人彼を呼ぶに田中不善立を以てす、其鼻持ちならぬ小人たるを知るべし。

森田小六郎は政友會より轉輾して中正會に入れり、彼はヤンキー灰殻にして演説狂なり。一言之を掩へば望小太の善良なるもの、竹越與三郎の小なるものにて極めて無邪氣なり。大口喜六は藥劑師上りにて、元豊橋市長たり、辯舌も巧に人物をも確實なり、先是愛知國民黨に志賀重昂、加藤六藏ありしも、前者はズツ昔に足を洗ひ、後者は鬼籍に